

授業科目等の概要

服飾専門課程		ファッションテクニカル科				1年								
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野の設計において、CADを活用した衣服設計を行える技術を身につけ、製造において、素材の特性を理解しながら生産工程の効率化を図るスキルを習得し即戦力となる縫製士やパタンナーを育成する。同時に品質管理における「Quality（品質）」「Cost（価格）」「Delivery（納期）」「Safety（安全）」に必要な能力を磨き、多能工技能者として育成する。													
分類	必修	<input type="radio"/>	選択		配当年次	1	年	学期	通年	<input type="radio"/>	前期		後期	
種別	総論				授業形態	講義	<input type="radio"/>	演習		実習				
授業科目	アパレル素材 I				単位	2単位								
担当教員	山崎 菜穂子				職業実践専門課程：企業との連携									
※実務家教員	<input type="radio"/>	洋裁のできるコワーキングスペースでの糸作りや服作り・ワークショップ・運営経験を活かし、洋裁の楽しさや生地ができるまでの工程、素材の違い・種類・加工について触れ、素材の大切さを伝えることができる。また、婦人子供服製造技能士2級取得の能力を活かし、服作りの製造過程を伝授・補助する。												
資格検定												必修		選択
授業概要	アパレル製品の企画、デザイン、縫製、販売に必要な不可欠な知識である「テキスタイル」。1年次はその基礎知識として、繊維や糸からテキスタイルが出来るまで、ファッション動向を把握し、製品の管理や取り扱いに至るまでを幅広く学ぶ。そして実際に取り扱う素材を扱いながら、テキスタイルへの理解を深め、手に取ったテキスタイルの素材名、組成、風合いなどをマスターし、そこから各分野（企画、デザイン、縫製、販売）に必要な判断が出来るようになることを目標とする。													
学習成果	①	繊維の種類について理解する。				成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果	60	%				
	②	織り、編み、加工について理解する。					2	提出物/期限遵守	10	%				
	③	繊維取り扱い表示記号について理解する。					3	独創性/習熟度	10	%				
	※	テキスタイルの使い方を提案できるスキルの習得。					4	意欲・授業態度	20	%				
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ●テキスタイルハンドブック ●テキスタイル辞典 ●KFDオリジナルプリント配布 													

前期授業計画 (4月-9月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容	
1	1-2	アパレル素材とは、繊維とは、繊維の種類 (天然繊維1)	アパレル素材とは何かその重要性を説き、天然繊維の綿、麻について知り、その長所と短所について理解を進め、実際に手に取りながら感覚を覚える。(予習:テキスタイル辞典P18~P27、P31に目を通す。復習:素材、天然繊維1の復習をし、次回の小テストにて再確認する。)	
2	3-4	繊維の種類 (化学繊維) ・小テスト	化学繊維について知り、その長所と短所について理解を進め、実際に手に取りながら感覚を覚える。(予習:テキスタイル辞典のP36~P50まで目を通す。復習:化学繊維について復習し、次回の小テストにて再確認する。)	
3	5-6	繊維の特徴のまとめ・小テスト	これまで学習したことを事前に復習し、空枠にテキストを埋め込む形で更に理解を深め、資料として残るようにまとめる。(復習:繊維について復習し、まとめや小テストにて再確認する。)	
4	7-8	糸とは布地とは・小テスト	スパン糸、フィラメント糸、甘撫糸、強撫糸など、糸の構造を知り、布地になるとどうなるか実際の糸やテキスタイルを触り理解を進める。	
5	9-10	布地とは (織物) ・小テスト	平織り、綾織り、朱子織について構造を知り、演習してみることで更に理解を深める。(予習:テキスタイル辞典P66、P67に目を通す。復習:織物について復習し、次回の小テストで再確認する。)	
6	11-12	布地とは (編み物)、布地とは (レース、網地、ネット) 小テスト	編み (ニット) について構造を知り、その他のレース、網地、ネットについても理解を進める。(予習:テキスタイル辞典P154~P155、P186~P187に目を通す。復習:織物について)	
7	13-14	布地とは (加工)、素材感性1 (風合い) ・小テスト	布地の加工について理解を進め実際に手に取り確かめる。また、風合いと材質感感性軸に当てはめながら確認をする。(予習:テキスタイル辞典P198~P230に目を通す。復習:加工や風合いについて復習し、次回の小テストで再確認する。)	
8	15-16	繊維の種類 (天然繊維2) ・小テスト	天然繊維の毛、絹について知り、その長所と短所について理解を進め、実際に手に取りながら感覚を覚える。(予習:テキスタイル辞典P28~P35に目を通す。復習:天然繊維2について復習し、次回の小テストで再確認する。)	
9	17-18	柄・小テスト	基本的な柄を配布プリントや実際のテキスタイルを見て理解を進める。(予習:テキスタイル辞典P232~P296について目を通す。復習:柄について復習し、次回の小テストで再確認する。)	
10	19-20	前期テスト対策・小テスト	プリントリやノートの整理・試験対策をする。また、検定に向けて素材に関する練習問題を解く。(復習:前期の範囲を復習し、テスト対策に備える。)	

通年

2026年 ファッションテクニカル科1年シラバス

授業科目等の概要															
学科	服飾専門課程			ファッションテクニカル科					1年						
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野の設計において、CADを活用した衣服設計を行える技術を身につけ、製造において、素材の特性を理解しながら生産工程の効率化を図るスキルを習得し即戦力となる縫製士やパタンナーを育成する。同時に品質管理における「Quality (品質)」「Cost (価格)」「Delivery (納期)」「Safety (安全)」に必要な能力を磨き、多能工技能者として育成する。														
分類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	1	年	学期	通年	<input type="radio"/>	前期	後期			
種別	流通・販売				授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="radio"/>	実習	<input type="checkbox"/>				
授業科目	キャリアトレーニング				単位	2単位									
担当教員	月橋 一浩・三好 真代				職業実践専門課程：企業との連携										
※実務教員	<input type="radio"/>	月橋：人事業務経験者。人事評価や就職情報提供を行う会社を経営。実践的ビジネスマナーの知識・技術を教授する。 三好：人材紹介、再就職支援経験者。個と組織のウェルビーイングを支援する事業を展開。キャリア開発を教授する。													
資格検定												必修	<input type="checkbox"/>	選択	<input type="checkbox"/>
授業概要	学生自身が、自分の将来をより良いものにするためには「何が必要か」「どんな職業に就きたいか」などを考え、就職をゴールではなく、スタートであり通過点である事を認識する。授業内容は講師の話を一方向的に聞くのではなく、グループ内で考えたり、発表したり、ゲーム形式でのワークを行い、頭や体・口を動かしながら授業を進める。														
学習成果	①	今後のキャリアプラン（ゴール）を明確にし行動につなげる。				成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果		%					
	②	人生設計において有効なコミュニケーションスキルを身につける。					2	提出物/期限遵守	60	%					
	③	難易度の高い就活をクリアするためのノウハウを学ぶ。					3	独創性/習熟度		%					
	※	就職活動に有効なビジネスマナーの習得。					4	意欲・授業態度	40	%					
使 用 材	<ul style="list-style-type: none"> ●オリジナルプリント（テキスト）配布 ●ゲームやローブレ、グループワークを多用した授業内容 														

前期授業計画（4月-9月）			授業目的・準備学習（予習・復習）内容	
1	1-2	オリエンテーション（アイスブレイク・自己紹介・ビジネスマナーとは・ゴール提示）	ゴールを提示し、これから何を考え、勉強していくのかを明確にする。自分自身のゴールを見据えることで、今後の行動につながる。（マナーと発声練習の復習）	
2	3-4	人生100年時代のキャリア形成	将来のキャリアについて考える。（キャリアプラン）（復習：キャリアシミュレーションゲーム終了後の自分の課題を整理しておくこと）	
3	5-6	ライフプランニング、マネープランニング	人生の各ステージにおけるプランニングとマネープランニングについて考える。（予習：自分なりの10年後、20年後、30年後どうなりたいか、未来を考えておく。）	
4	7-8	社会人とは（社会人と学生の違い）、仕事をするこの意味とは	社会人と学生の違いを自ら考えることで認識し、社会人になる心構えができるようになる。仕事の意味を問うことで、自分で答えを見つけていく。（復習：仕事をするこの意味を各自深める）	
5	9-10	質問力・価値観分析シート作成	ワークショップを通じてコミュニケーションスキル向上を目指す。自分の価値観について考える。（復習：自分の価値観を就職にどう結びつけるかを整理しておくこと）	
6	11-12	ほめるワーク・座学（報連相のポイント）・カードゲーム	ワークショップを通じてコミュニケーションスキル向上を目指す。報連相のポイントを学ぶ。（復習：報連相&ほめる）	
7	13-14	自己理解・カードゲーム・座学（アサーティブ）	ワークショップを通じてコミュニケーションスキル向上を目指す。コミュニケーション手法について学ぶ。	
8	15-16	自己分析を深掘りする、1~8小テスト	これまでの自己分析を整理して深掘りする。	
9	17-18	言葉遣いの基本（敬語、クッション言葉、間違った日本語）	敬語の基本的な形から場面に応じた敬語、ビジネス敬語も取り入れる。ビジネスで必要なクッション言葉の習得や間違った日本語の違いを理解する。（復習：日々の生活で実践する）	
10	19-20	プレゼンテーション手法	自分の考えや言いたい事を、他の人に分かりやすく伝えるスキルを習得する。①目的意識、②まとめ方、③事例で語る、④質問する、⑤動く（復習：発表での自身の課題を明確にすること）	
11	21-22	ワークショップ・文章作成の基本	ワークショップを通じてコミュニケーションスキル向上を目指す。伝わりやすい文章作成方法を学ぶ。	
12	23-24	プレゼンテーション・スピーチの基本（表現力、伝える力、人前で話す力、発表練習）	プレゼンテーションの基本を学び、グループで自分の意見を人前で発表できるよう練習を実施する。（予習：PPTや制作物を準備・復習：発表での自身の課題を明確にすること）	
13	25-26	プレゼンテーション・スピーチの基本（表現力、伝える力、人前で話す力、発表練習）	プレゼンテーションの基本を学び、グループで自分の意見を人前で発表できるよう練習を実施する。（予習：PPTや制作物を準備・復習：発表での自身の課題を明確にすること）	
14	27-28	9~13小テスト、グループディスカッション（1）	集団の中で自分の資質に合った言動や振る舞いができる能力を身に付け、チームワークの重要性を理解する。（復習：グループディスカッションでの自身の課題を明確にすること）	
15	29-30	模擬グループディスカッション（2）（課題認識、役割認識、グループ発言、フィードバック）	グループディスカッションでの課題認識、役割認識、表情、発言、声の大きさなど、面接官と学生側両方を体験し、相互に評価し合い学んでいく。（復習：模擬ディスカッションでの自身の課題を明確にすること）	

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	就職活動の基本(企業研究・職種理解)	就職活動の基本を学ぶ。企業研究のポイントを学び、職種理解を深める。 (予習:事前に企業研究シートの記入を課題とする)
2	3-4	自己分析から自己PRへ(PREP法)	自己分析の結果から、自己PRへ展開する手法を学習する。文章の作成後、PREP法に分解し、実際に履歴書内に書き込んでいく。 (復習:履歴書の見直し)
3	5-6	自己PR・志望動機のための自己分析(マインドマップ・ロジックツリー作成)	自己PR・志望動機で、正しく自分を知らってもらうには、いかに自分を知り得るかが重要となる。マインドマップやロジックツリーを作成することで、自己の信念や資質、要求を深掘りし、把握・理解する。(復習:作成物の見直し)
4	7-8	自己PR・志望動機のための自己分析(自分史作成)	正しく自分を知らってもらうには、いかに自分を知り得るかが重要となる。自分史を作成することで、自己の信念や資質、要求を深掘りし、把握・理解する。(予習:小中高時代を振り返っておく)
5	9-10	自己分析まとめ1およびフィードバック	2~4のまとめと講師からのフィードバック (復習:フィードバック理解をさらに深めること)
6	11-12	自己分析まとめ2およびフィードバック	2~4のまとめと講師からのフィードバック (復習:フィードバック理解をさらに深めること)
7	13-14	履歴書・エントリーシート、ビジネス文書の書き方1、写真撮影のコツ(ルール、項目の意味、表現方法)	履歴書とエントリーシートを書くために必要なルール、項目を知り、理解できるようになる。項目ごとに書き込む内容を自分で文ででき、就職するに望ましい表現力を身に付ける。
8	15-16	履歴書・エントリーシート、ビジネス文書の書き方2(ルール、項目の意味、表現方法)	履歴書とエントリーシートを書くために必要なルール、項目を知り、理解できるようになる。項目ごとに書き込む内容を自分で文ででき、就職するに望ましい表現力を身に付ける。
9	17-18	模擬集団面接1 (自己分析、面談態度、発言、フィードバック)	集団面接での適切な言葉遣い、表情、発言、立ち居振る舞い、声の大きさなど、面接官と学生側両方を経験し、相互に評価し合い学んでいく。(予習:自身の長所短所を具体的な事例で語る)
10	19-20	はがきの書き方・手紙やメールの書き方・御礼状	マナーを習得し、実践で学んだ事を就職活動で活用出来る。 (復習:資料を見直し、理解を深めること)
11	21-22	模擬集団面接2 (自己分析、面談態度、発言、フィードバック)	集団面接での適切な言葉遣い、表情、発言、立ち居振る舞い、声の大きさなど、面接官と学生側両方を経験し、相互に評価し合い学んでいく。(予習:一生懸命取り組んだ事を具体的な事例で語る)
12	23-24	模擬WEB面接 (通信環境、視線、自己分析、発言、フィードバック)	WEB面接での通信環境整備、言葉遣い、表情、自己分析、声の大きさなど、面接官と学生側両方を経験し、相互に評価し合い学んでいく。(予習:ZOOMやTEAMSを使っておく)
13	25-26	模擬個人面接 (面接態度、笑顔、自己分析、発言、フィードバック)	個人面接での適切な言葉遣い、表情、立ち居振る舞い、声の大きさなど、面接官と学生側両方を経験し、相互に評価し合い学んでいく。(復習:模擬面接の自身の課題を明確にすること)
14	27-28	就活向けグループディスカッション1	企業側の視点を理解し、必要となる心構え・役割・評価ポイントを習熟。また、集団の中で自分の考えを伝えるスキルを身につける。
15	29-30	就活向けグループディスカッション2	企業側の視点を理解し、必要となる心構え・役割・評価ポイントを習熟。また、集団の中で自分の考えを伝えるスキルを身につける。
準備学習 (予習・復習)		1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		全体を通して参加型授業のため、積極的に参加、発言出来るよう心がける。	

授業科目等の概要

服飾専門課程		ファッションテクニカル科		1年											
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野の設計において、CADを活用した衣服設計を行える技術を身につけ、製造において、素材の特性を理解しながら生産工程の効率化を図るスキルを習得し即戦力となる縫製士やパタンナーを育成する。同時に品質管理における「Quality (品質)」「Cost (価格)」「Delivery (納期)」「Safety (安全)」に必要な能力を磨き、多能工技能者として育成する。														
分類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	1年	学期	通年	<input type="radio"/>	前期	<input type="checkbox"/>	後期	<input type="checkbox"/>		
種別	服飾造形			授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="checkbox"/>	実習	<input type="radio"/>					
授業科目	ソーイング I			単位	12単位										
担当教員	江端 由恵			職業実践専門課程：企業との連携								<input type="radio"/>			
※実務家教員	<input type="radio"/>	洋服リメイク企業にて縫製、接客、店舗運営に従事し、衣服の修理・リメイクに関する実務経験を有する。現場で培った技術と経験を基に、実務に即した縫製技術およびものづくりの基礎力の育成を指導する。2024年婦人子供服製造技能士1級取得。													
資格検定												必修	<input type="checkbox"/>	選択	<input type="checkbox"/>
授業概要	衣服制作に必要な基礎的な縫い方、ミシン縫製、アイロン仕上げの方法を学び、ディテール実習や部分縫いを繰り返し行いながら衣服の縫製技術を習得する。														
学習成果	① 服作りのための基礎的な技術を身につける。				成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果		%						
	② 素材によって仕様は多様にあることを知り、その技術を学ぶ。					2	提出物/期限遵守	30	%						
	③ 反復する事で作業効率を考え、仕上げる事が出来るようになる。					3	独創性/習熟度	40	%						
	※ 高度な技術習得を目指すための基礎力を養う。					4	意欲・授業態度	30	%						
使 用 材	<ul style="list-style-type: none"> ●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④ ●KFDオリジナルプリント配布 ●ソーイングセット、シーチング、各アイテムの生地 														

前期 授業計画 (4月-9月)				授業目的・準備学習(予習・復習)内容			
1	1-10	ミシン基礎縫い、ブックカバーの裁断、縫製		工業用ミシンに慣れる。出来上がり線と縫い代の関係を学ぶ。			
2	11-20	定規入れを裁断・縫製		工業用ミシンに慣れ、アイロンがけの基礎を学ぶ。			
3	21-36	キュロットスカート裁断・縫製		ロックミシンに慣れ、カーブが縫えるようになる。パターンの寸法通りに仕上げる。			
4	37-44	手縫いの基礎		制作における指ぬきの使い方、手縫いの基礎、ボタン付けなどミシンでは行えない縫製技術を学ぶ。			
5	45-74	フラットニットファスナー、ウエストベルト付け部分縫い、セミタイトスカート裁断・縫製		フラットニットファスナー付け、スカートベルト付けを学ぶ。			
6	75-82	縫い代の始末7種、アタッチメントの使い方		素材の厚みや風合いの変化によって、始末の方法が変わることを学ぶ。			
7	83-91	フラットカラー、スタンドカラー、シャツカラー部分縫い 衿ぐりの始末 部分縫い		衿の構造、衿付けの方法を3種習得し、デザインや素材によって縫い方が変わることを学ぶ。 衿ぐり、袖ぐりがつづきの見返しの学習。			
8	92-110	袖口カフスあき3種(見返し・持ち出し・短冊あき)		袖口カフスあきを習得。素材・デザイン・コスト等で縫製仕様を変えることを学ぶ。			
9	111-146	ブラウスシャツ裁断・縫製		実用的なブラウス制作を通して縫製工程を理解し、作業速度と精度を高める。			
10	147-148	内カーブ、外カーブの縫い方、内角と外角の縫い方		内外カーブ、内外角の縫合について学ぶ。			
11	149-156	コンシールファスナー、見返し始末		コンシールファスナー付け習得、見返し付けを学ぶ。			
12	157-166	フリル、フレアー、ギャザー、タック、シャーリング、パイピング、額縁縫い		ディテール、パイピング等を習得し、どんなデザインにも対応出来る技術を身に付ける。			
13	167-176	シームポケットの部分縫い		文化祭での子供服制作するにあたり、基本的なポケットを学ぶ。			
14	177-188	衿付け部分縫いに各種袖を付ける(セットインスリーブ、パフスリーブ)		セットインスリーブ、長さの違う逆カーブの縫合は、次のアイテムであるジャケットに必要な技術である。			
15	189-215	文化祭作品 子供服裁断・縫製		前期で学んだ技術を活かし、子供の成長や動き、オケージョンに合わせて仕様で制作する。			

通年

2026年 ファッションテクニカル科1年シラバス

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-27	文化祭作品 子供服裁断・縫製	前期で学んだ技術を活かし、子供の成長や動き、オケージョンに合わせた仕様で制作する。
2	28-31	職業実践制作 裁断・縫製	実際に商品となる物を縫うことで、緊張感を持ち技術レベルを上げる。
3	32-44	穴かがり手かがり	注文服2級検定に向けて手穴かがりを学ぶ。
4	45-59	箱ポケット	身頃本体に切り込みを入れるポケットは、市場に多いので身に付ける。
5	60-75	フラップポケット	身頃本体に切り込みを入れるポケットは、市場に多いので身に付ける。
6	76-111	裏付きスカートにてオーダー仕立て切りじつけ	切りじつけを用いて仮縫い、補正を行う。
7	112-121	裏付きパンツ、ウエストベルト付け	裏地の扱いに慣れる。パンツの構造を学ぶ。
8	122-133	テーラードカラー部分縫い	テーラードカラー合理的な縫い方を学ぶ。
9	134-143	裏付きテーラードジャケット①	ウールの特徴を習得し、裁断、芯貼り、テープ貼りを学ぶ。
10	144-153	裏付きテーラードジャケット②	身頃、袖のクセとりについて学ぶ。
11	154-163	裏付きテーラードジャケット③	ウール素材の扱いに慣れ、身頃縫製、袖のあきみせの縫製、ウールのダーツ縫い、アイロン工程、いせ込みについて学ぶ。
12	164-179	裏付きテーラードジャケット④	ジャケットのセットインスリーブの付け方、肩パット、袖山の付け方について学ぶ
13	180-195	裏付きテーラードジャケット⑤	仕上げアイロンについて学ぶ。
14	196-211	中縫いパッチポケット	注文服2級検定に向けての縫製を学ぶ。
15	212-224	まとめ(工程分析表・仕様書・実物パターン・写真セット)	制作するにあたり工程分析表、縫製仕様書、実物パターンは必須。
準備学習 (予習・復習)		ソーイングのような実習教室等における授業に関しては、教室外における1時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、30時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		初心者もいるため前期は難しく感じる場合もあるが、多くの学生は将来メーカーの商品制作に携わる可能性がある。そのため、縫製の良し悪しを判断する客観的な基準を身につけることが重要である。	

授業科目等の概要												
学 科	服飾専門課程			ファッションテクニカル科				1年				
D P / 学科人材育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野の設計において、CADを活用した衣服設計を行える技術を身につけ、製造において、素材の特性を理解しながら生産工程の効率化を図るスキルを習得し即戦力となる縫製士やパタンナーを育成する。同時に品質管理における「Quality (品質)」「Cost (価格)」「Delivery (納期)」「Safety (安全)」に必要な能力を磨き、多能工技能者として育成する。											
分 類	必修	○	選択	配当年次	1 年		学 期	通年	前期	○	後期	
種 別	デザイン				授業形態	講義	演習	○	実習			
授業科目	ドローイング I				単 位	1単位						
担当教員	舞田 章子				職業実践専門課程：企業との連携							
※実務家教員	○	他校講師ならびに自身のコンクール入賞経歴を経て評価を得ている。ドローイングの基礎力を伝授する。										
資格検定											必修	選択
授業概要	人体のプロポーションを理解し基礎力をつけるため、短時間で特徴を掴むクロッキーを常に行い、主に平面画を習得し、縫製仕様書に必要な基礎的な描き方の練習を積みながら洋服の構造を読み取り、絵で表現する力を身につけることを目的とする。											
学習成果	① 人体のプロポーションを理解する。 ② ボディバランスを理解し、様々なポージングの描き方を習得する。 ③ ドローイングに必要な画材を使用し、基本的な着色方法を学ぶ。 ※ 基礎能力を固めデザインを伝える事が出来るようにする。				成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1	定期試験結果			%	
							2	提出物/期限遵守		80	%	
							3	独創性/習熟度		10	%	
							4	意欲・授業態度		10	%	
使 用 材	●ドローイングセット ●KFDオリジナル実習プリント配布 ●コレクション雑誌											

前期授業計画 (4月-9月)			授業目的・準備学習 (予習・復習) 内容
1	1-2	線の練習	用具の説明。鉛筆を使用し線に慣れる。
2	3-4	人体のバランスの法則	人体のバランスを8頭身を理解する。
3	5-6	ボディの描き方 (女性)	ヌードボディを描き、人体のプロポーションを理解する。 (予習：配布プリントを目を通しておく)
4	7-8	スカートの平面画の描き方	仕様書に必要な、平面画の描き方、構造線の描き方を学ぶ。
5	9-10	ブラウスの平面画の描き方 ①	仕様書に必要な、平面画の描き方、衿、袖の描き方を学ぶ。
6	11-12	ブラウスの平面画の描き方 ②	仕様書に必要な、平面画の描き方、衿、袖の描き方を学ぶ。
7	13-14	シャツの平面画の描き方	仕様書に必要な、平面画の描き方、衿、袖の描き方を学ぶ。
8	15-16	衿の各種の平面画の描き方	仕様書に必要な、襟ぐりの平面画の描き方を学ぶ。
9	17-18	パンツの平面画の描き方	仕様書に必要な、平面画の描き方を学ぶ。
10	19-20	ジャケットの平面画の描き方	仕様書に必要な、平面画の描き方を学ぶ。
11	21-22	指示書の描き方 ①	指示書に必要な、書き方を学ぶ。
12	23-24	指示書の描き方 ②	指示書に必要な、書き方を学ぶ。
13	25-26	指示書の描き方 ③	指示書に必要な、書き方を学ぶ。
14	27-28	指示書の描き方 ④	指示書に必要な、書き方を学ぶ。
15	29-30	ファイル整理/まとめ	ファイリングし、復習も兼ねて見直す。
準備学習 (予習・復習)	演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。		
その他 (授業に際しての注意点)	構造線を理解した平面画を描く。用紙は、必要に応じてクラスで準備をする。文化祭、進級作品展で展示する。		

授業科目等の概要

学 科		服飾専門課程		ファッションテクニカル科				1年							
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野の設計において、CADを活用した衣服設計を行える技術を身につけ、製造において、素材の特性を理解しながら生産工程の効率化を図るスキルを習得し即戦力となる縫製士やパタンナーを育成する。同時に品質管理における「Quality (品質)」「Cost (価格)」「Delivery (納期)」「Safety (安全)」に必要な能力を磨き、多能工技能者として育成する。														
分 類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	1	年	学 期	通 年	<input type="radio"/>	前期	<input type="checkbox"/>	後期	<input type="checkbox"/>	
種 別	服飾造形				授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="radio"/>	実習	<input type="checkbox"/>				
授業科目	パターンメイキングⅠ				単 位	12単位									
担当教員	江端 由恵・野田部 寛之				職業実践専門課程：企業との連携										
※実務家教員	<input type="radio"/>	野田部：全技連マイスターとして技能五輪全国大会の実技指導経験、日本ファッション教育振興協会パターンメイキング技術検定委員、ものづくりマイスターとして教育訓練機関の若年者に対しての実技指導経験、また婦人子供服製造技能士1級取得の能力を活かし、服のプロダクトについてのノウハウを教授する。 江端：洋服リメイク企業にて縫製、接客、店舗運営に従事し、衣服の修理・リメイクに関する実務経験を有する。現場で培った技術と経験を基に、実務に即した縫製技術およびものづくりの基礎力の育成を指導する。2024年婦人子供服製造技能士1級取得。													
資格検定	一般財団法人日本ファッション教育振興協会：パターンメイキング技術検定3級											必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>
授業概要	パターン制作の作図理論を基礎として、各種アイテムやディテールの基本作図、シルエット展開、パターン操作を学ぶ。また、工業用パターン制作に必要な知識と技術を身につける。後期はパターンメイキング技能検定3級合格を目標とする。														
学習成果	①	服の部位のデザインを捉え、作図する能力を養う。				成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果	80	%					
	②	ターンメイキング技能検定3級合格に必要な知識と技術を身につける。					2	提出物/期限遵守		%					
	③	パターンを学び、服の構造を理解した上で仕様書の作成が出来る。					3	独創性/習熟度	10	%					
	※	人の動作による寸法の変化、ゆとりを考慮して作図出来る力を養う。					4	意欲・授業態度	10	%					
使 用 材	<ul style="list-style-type: none"> ●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④、誌上パターン塾vol.1・2・4 ●パターンメイキング技術検定試験3級ガイドブック ●作図道具一式 														

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容	
1	1-2	パターンメイキングとは、作図方法の分類、作図方法、ブックカバーの1/2作図 縫い代つけ	直線の引き方や定規の使い方を学び、作図の基礎を理解する。また、ソーイング実習に運動したパターン作成の基本を学ぶ。	
2	3-8	線の引き方、定規入れの製図1/4作図、縫い代の付け方1/4作図、定規入れ実物作図	直線の線の引き方、型紙の抜き取り、仕様による縫い代付けを学ぶ。	
3	9-14	キュロットスカート1/4作図、縫い代付け1/4作図、実物作図及び工業用パターン	曲線の引き方。ソーイングに運動した工業用パターン作成。	
4	15-16	ボトム原型とは、ボトム原型ドレーピング、ダーツとは	原型とは何か、ダーツとは何かについて学ぶ。平面作図と立体作図の違いを学ぶ。	
5	17-24	スカート基本原型、セミタイトスカート1/4作図、実物工業用パターン	歩行と裾周り寸法の関係、動作による寸法の変化(ゆとり)。ソーイングに運動したパターン作成。	
6	25-26	トップス原型とは、衣料パターン表示記号、原型操作(ダーツの分割)	パターンを引く上で必要な原型操作、及びJIS記号を覚える。	
7	27-28	原型型出し、補正	成人女子原型を元に自分体型に合った原型を作成。	
8	29-34	基本型のパターンを使ったブラウスの展開	基本型からの身頃のデザイン応用。	
9	35-40	ブラウス1/4・1/2作図及び縫い代付け(シャツブラウス・ヨークギャザー・ダイヤモンドダーツ・衿・袖の組み合わせ)	ブラウスの構造、及びデザイン変化の基本的なパターンの引き方。	
10	41-44	衿各種・衿ぐり各種(スタンド、シャツ、フラット、ボータイ、セーラー)(スクウェア、V、ボート、ラウンドネック)	トップス、衿ぐり、衿各種のパターン、及び衿応用作図。	
11	45-48	袖各種(セットイン、パフ、ドロップ、フレア、キャップ、カフス付き)1/4作図、3種実物作図	トップス袖各種基本パターン、及びデザイン変化応用作図。	
12	49-60	台衿付き長袖シャツ1/4作図・縫い代付け(反転処理)、実物作図及び工業用パターン	9・10・11を習得した上で、ソーイングに運動した工業用パターン作成。	
13	61-62	ギャザー、サーキュラー、ティアード、ギャザーフレアスカート1/4作図	前期の復習として、スカートの応用を学ぶ。	
14	63-66	女兒ワンピース、腹ぐせダーツ展開(ハイウエスト、ローウエスト、Aライン)1/4作図	成人原型と子供原型の違いを学び、トップスとボトムスの組み合わせでワンピースが出来ることを学ぶ。	
15	67-70	文化祭作品 子供服1、2着目1/4作図	上記までの学習を活かし、文化祭での作品の1/4作図をする。	

通年

2026年ファッションテクニカル科1年シラバス

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-23	文化祭作品 子供服1、2着目実物作図	前期15の実物作図、ファーストパターン作成。
2	24-35	文化祭作品 子供服1、2着目実物作図、及び型出し・補正	後期1のシーティングでの型出し、及びパターン修正。
3	36-52	タイトスカート(パンツあき・裏地付き)裏地パターン作図1/4作図 及び 実物作図	パンツパターンを学ぶ。裏地用パターンを学ぶ。ソーイングに連動したタイトスカートの実物作図。
4	53-82	パターン検定筆記・製図過去問題、技術検定対策、グレーディングの基礎 ①	パターン検定3級受験のための対策筆記過去問。
5	83-111	パターン検定筆記・製図過去問題、技術検定対策、グレーディングの基礎 ②	パターン検定3級受験のための対策。実物パターンメイキング。
6	112-141	パターン検定筆記・製図過去問題、技術検定対策、グレーディングの基礎 ③	パターン検定3級受験のための対策。型出し練習。
7	142-146	テーラードカラーの引き方1/2作図	テーラードカラーを学ぶ。
8	147-154	4面構成テーラードジャケット1/4作図	四面構成テーラードジャケットを学ぶ。ジャケットの裏地パターンを学ぶ。ソーイングに連動したジャケットの実物作図。
9	155-158	3面構成のテーラードジャケット1/4作図	ジャケットの基本型を学ぶ。
10	159-164	テーラードジャケット表衿・見返し展開、セットインスリーブいせ計算	表衿、見返しの布の厚みなどの関係性を学ぶ。セットインスリーブのいせの配分を学ぶ。
11	165-182	テーラードジャケット1/4作図、工業用パターン、裏地・芯地パターン	ジャケットの裏地パターンを学ぶ。ソーイングに連動したジャケットの実物作図。
12	183-200	テーラードジャケット、工業用パターン、裏地・芯地パターン実物作図	ソーイングに連動したジャケットの実物作図。
13	201-218	ドレーピングの基礎(トップス・ボトム)	ボディの形状を観察しながら体の構造を理解し、立体裁断によりトフルを作成する。作成したトフルを基に平面製図へ展開し、立体とパターンの関係を理解する。
14	219-222	タイトスカートからのスカート展開(ペグトップ・ヒップボン・ゴアード・部分プリーツ・マーメイド)1/4作図	2年次の卒業記念展に向けた、ボトム応用パターンを学ぶ。
15	223-229	ノート整理	1年次まとめ。
準備学習 (予習・復習)		演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		パターンメイキングは衣服設計の基礎となる重要な技術である。繰り返し作図を行うことで、平面パターンと立体構造の関係を理解し、衣服制作へとつなげる。	

授業科目等の概要

学 科	服飾専門課程 ファッションテクニカル科 1年												
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野の設計において、CADを活用した衣服設計を行える技術を身に付け、製造において、素材の特性を理解しながら生産工程の効率化を図るスキルを習得し即戦力となる縫製士やパタンナーを育成する。同時に品質管理における「Quality (品質)」「Cost (価格)」「Delivery (納期)」「Safety (安全)」に必要な能力を磨き、多能工技能者として育成する。												
分 類	必修	○	選 択	配当年次	1	年	学 期	通 年	○	前 期	後 期		
種 別	服飾造形						授業形態	講義	演習	○	実習		
授業科目	ハンドワーク						単 位	2単位					
担当教員	高木 亜由美・江端 由恵						職業実践専門課程：企業との連携						
※実務家教員	○	高木：劇団四季にて舞台衣装の製作に長年携わり、衣装製作に必要な手芸を伝授する。 江端：洋服リメイク企業にて縫製、接客、店舗運営に従事し、衣服の修理・リメイクに関する実務経験を有する。現場で培った技術と経験を基に、実務に即した縫製技術およびものづくりの基礎力の育成を指導する。2024年婦人子供服製造技能士1級取得。											
資格検定											必修	選 択	
授業概要	手作業で装飾をするための基礎的な技術を習得し、作品のデザイン性や商品価値を高める。また、自由課題作品に応用できるテクニックを身に付け、文化祭展示作品に活かす。												
学習成果	① 基礎的なハンドワーク技術の取得。 ② 自由作品課題に応用できるテクニックの習得。 ③ アパレル商品のデザイン性や商品価値を高める。 ※ 製造業における手作業の技術向上。						成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果	%			
								2	提出物/期限遵守	70	%		
								3	独創性/習熟度	20	%		
								4	意欲・授業態度	10	%		
使 用 材	●文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑧ ●KFDオリジナル実習プリント配布												

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	ドロンワーク/キャンパスワーク	ドロンワークの種類や技法を学び、キャンパスワークと組み合わせた作品の製作を行う。
2	3-4	エンブroidアリー 糸系刺繍基礎①	カラーエンブroidアリーの種類と基礎を学び、バックステッチ、アウトラインステッチ、チェーンステッチの技法を実践・習得する。(P25~64を目を通し確認しておくこと)
3	5-6	エンブroidアリー 糸系刺繍基礎②	サテンステッチ、レザーデージステッチ、ブランケットステッチ、フレンチナッツステッチ、リーフステッチの刺し方を理解し、実践・習得する。
4	7-8	エンブroidアリー 糸系刺繍基礎③	ロングアンドショートステッチ、プリオンステッチ、コーチングステッチ、の刺し方を理解し実践・習得する。
5	9-10	ビーズ エンブroidアリー/ミラーワーク	ビーズやバングルの種類や基礎を学び、止めつけの技法を実践・習得する。
6	11-12	カットワーク、アイレットワークの種類と基礎技法	カットワーク、アイレットワークの種類や基礎技法を学び、実習を通して習得する。
7	13-14	リボンエンブroidアリー①	リボンエンブroidアリーの種類や基礎を学び、数ある技法の中から、5種類の技法を実践・習得する。(アウトラインステッチ、レザーデージステッチ)
8	15-16	リボンエンブroidアリー②	(小花刺し、フレンチナッツステッチ、リボンステッチ)
9	17-18	リボンワーク①	幅広いリボンを用い、折りやギャザー、ひだを用いて立体感を表現する技法を学ぶ。
10	19-20	リボンワーク②	リボンワークの技法を実習を通して習得する。
11	21-22	作品制作①	これまで習得した刺繍技法や装飾技法を活かし、図案構成や素材選択を考へながら作品制作を行う。
12	23-24	スマッキング①	スマッキングの種類や基礎を学び、ベーシックスマッキングの技法を実践・習得する。
13	25-26	スマッキング②	ラティスマッキングの技法を実施・習得する。
14	27-28	スマッキング③	ラティスマッキングの技法を実施・習得する。
15	29-30	基礎刺しの作品まとめ	作品のまとめを通して、技法理解の定着を図る。

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	スラッシュキルト①	スラッシュキルトの制作を通して、裁断方法を実習により習得する。
2	3-4	スラッシュキルト②	スラッシュキルトの制作を通して、裁断方法を実習により習得する。
3	5-6	マクラメレース①	マクラメレースの基礎技法を学ぶ。
4	7-8	マクラメレース②	マクラメレースの技法を実習を通して習得する。
5	9-10	キルティング	キルティングの基礎技法を学び、実習を通して習得する。
6	11-12	パンチニードル	刺繍糸や毛糸を用いるパンチニードルの基礎技法を実習を通して学ぶ。
7	13-14	作品制作②	スラッシュキルト、マクラメレースの技法を通して技法を構成しながら作品制作を行う。
8	15-16	クロッシュレース①	編み物の種類や道具を学び、クロッシュレースの基礎となる技法を実践・習得する。
9	17-18	クロッシュレース②	クロッシュレースの作品を製作する。
10	19-20	ビーズワーク	ビーズを用いてフリンジなどの技法を実践・習得する。
11	21-22	帽子制作①	ハンドワーク技法を活用した帽子制作を行う。
12	23-24	帽子制作②	帽子制作を通して作品を完成させる。
13			
14			
15			
準備学習 (予習・復習)		演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		基礎刺しのまとめ方はクラス毎におこない、自由課題は文化祭・進級作品展にて展示発表する。日頃から、ハンドワークが施されている作品を多く目にして感性を養ってほしい。	

授業科目等の概要												
学 科	服飾専門課程			ファッションテクニカル科				1年				
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野の設計において、CADを活用した衣服設計を行える技術を身につけ、製造において、素材の特性を理解しながら生産工程の効率化を図るスキルを習得し即戦力となる縫製士やパタンナーを育成する。同時に品質管理における「Quality (品質)」「Cost (価格)」「Delivery (納期)」「Safety (安全)」に必要な能力を磨き、多能工技能者として育成する。											
分 類	必修	○	選択	配当年次	1	年	学 期	通年	前期	○	後期	
種 別	デザイン						授業形態	講義	演習	○	実習	
授業科目	ファッション色彩						単 位	1単位				
担当教員	久保 康代						職業実践専門課程：企業との連携					
※実務家教員	○	福岡、東京でプライダグスタイリスト、コーディネーターを経験後、独立。パーソナルカラー診断、骨格診断をはじめ、ファッションやメイクなどトータルコーディネート提案、トータルビューティーアドバイスを行なっております。										
資格検定											必修	選択
授業概要	色彩学の基礎となる、色の三属性とトーン、配色について学ぶ。また、パーソナルカラー診断、骨格診断、トレンドカラーについて学び、多角的に色について学習する。基礎知識の応用として前期後半では、グループワークに取り組み、色、素材、デザイン、生地やボタンの組み合わせなど、実践的に学ぶ。											
学習成果	①	色彩学の基礎知識を習得する。					成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果			%
	②	パーソナルカラー、骨格診断、トレンドカラーの知識を習得する。						2	提出物/期限遵守		60	%
	③	似合うトータルコーディネート提案が出来るようになる。						3	独創性/習熟度		20	%
	※	仮想ブランドの提案が出来るようになる。						4	意欲・授業態度		20	%
使 用 材	<ul style="list-style-type: none"> ●色彩活用ライフケアカラー検定公式テキスト色彩学 ●カラーカード199a 											

前期授業計画 (4月-9月)				授業目的・準備学習 (予習・復習) 内容			
1	1-2	三属性とトーンについて		色相、明度、彩度について理解する。			
2	3-4	色名と色彩心理について		慣用色名、系統色名、色の心理的効果について理解する。			
3	5-6	配色 1		配色の基本的な考え方、色相配色、トーン配色を理解する。			
4	7-8	配色 2		配色の基本的な考え方、色相配色、トーン配色を理解する。			
5	9-10	パーソナルカラーとは		パーソナルカラーについて理解し、その効果や活用方法を学ぶ。			
6	11-12	骨格診断とは		骨格診断について理解し、スタイリングへの活用方法を学ぶ。			
7	13-14	トレンドカラー、メッセージカラー、今期ファッショントレンドについて		トレンドカラーが決定されるまでの流れを理解し、今季のファッショントレンドについて学ぶ。			
8	15-16	(グループワーク) 似合うコーディネート提案 ①企画		パーソナルカラー、骨格診断を取り入れた似合うコーディネート提案が出来るようになる。			
9	17-18	(グループワーク) 似合うコーディネート提案 ②撮影		パーソナルカラー、骨格診断を取り入れた似合うコーディネート提案が出来るようになる。			
10	19-20	(グループワーク) 似合うコーディネート提案 ③発表		パーソナルカラー、骨格診断を取り入れた似合うコーディネート提案が出来るようになる。			
11	21-22	私たちのブランド提案①		仮想ブランドを立ち上げ、ブランドコンセプトやカラーパレット、イメージボードを作成し提案を行う。			
12	23-24	私たちのブランド提案②		仮想ブランドを立ち上げ、ブランドコンセプトやカラーパレット、イメージボードを作成し提案を行う。			
13	25-26	私たちのブランド提案③		仮想ブランドを立ち上げ、ブランドコンセプトやカラーパレット、イメージボードを作成し提案を行う。			
14	27-28	私たちのブランド提案④		仮想ブランドを立ち上げ、ブランドコンセプトやカラーパレット、イメージボードを作成し提案を行う。			
15	29-30	プレゼン発表・まとめ		作品発表・ファイルのまとめ。			
準備学習 (予習・復習)	演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。						
その他 (授業に際しての 注意点)							

授業科目等の概要											
学科	服飾専門課程			ファッションテクニカル科					1年		
D P/ 学科人材育成	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野の設計において、CADを活用した衣服設計を行える技術を身につけ、製造において、素材の特性を理解しながら生産工程の効率化を図るスキルを習得し即戦力となる縫製士やパタンナーを育成する。同時に品質管理における「Quality (品質)」「Cost (価格)」「Delivery (納期)」「Safety (安全)」に必要な能力を磨き、多能工技能者として育成する。										
分類	必修	○	選択	配当年次	1年		学期	通年	前期	後期	○
種別	企画						授業形態	講義	演習	○	実習
授業科目	プロデュース I						単位	1単位			
担当教員	野田部 寛之・江端 由恵						職業実践専門課程：企業との連携				
※実務家教員	○ 野田部：全技連マイスターとして技能五輪全国大会の実技指導経験、日本ファッション教育振興協会パターンメイキング技術検定委員、ものづくりマイスターとして教育訓練機関の若年者に対しての実技指導経験、また婦人子供服製造技能士1級取得の能力を活かし、服のプロダクトについてのノウハウを教授する。 江端：洋服リメイク企業にて縫製、接客、店舗運営に従事し、衣服の修理・リメイクに関する実務経験を有する。現場で培った技術と経験を基に、実務に即した縫製技術およびものづくりの基礎力の育成を指導する。2024年婦人子供服製造技能士1級取得。										
資格検定	必修 ○ 選択										
授業概要	ソーイング実習で制作した子供服を用い、キッズファッションショーの企画・演出を行うことで、衣服表現やスタイリングの理解を深めるとともに、モデルとのコミュニケーションを通して実践的な表現力を養う。前期で学んできた知識、技術を活かしながら素材作り、テクニック、パターンメイキング、縫製技術を基に、卒業記念展に向けた作品制作のアイデア発想トレーニングやフォルムの研究を行い、テーマ決めまでを行う。また、グループワークでの取り組みによってコミュニケーションスキルを身につけるとともに、2年次の作品制作に繋げていくことを目的とする。										
学習成果	① テキスタイルとシルエット力を表現する力の習得。 ② アイデア発想の方法を理解する。 ③ テーマを基に、グループワークでのコンセプト設計の習得。 ※ 自由な発想でデザイン出来る表現力を身に付ける。						成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1 定期試験結果 % 2 提出物/期限遵守 20 % 3 独創性/習熟度 60 % 4 意欲・授業態度 20 %		
使用教材	●スタイリスト&コーディネートの条件										

後期 授業計画 (10月-3月)				授業目的・準備学習 (予習・復習) 内容			
1	1-2	キッズショーの企画・テーマ設定	キッズショーの目的や構成を理解し、ショーのテーマや演出の方向性を検討する。				
2	3-4	キッズショーのスタイリング計画	制作した子供服を用いてスタイリングやコーディネートを検討する。				
3	5-6	キッズショーの構成・演出計画	ショーの構成 (順序・音楽・演出) を計画する。				
4	7-8	キッズショーの演出確認・構成調整	子供モデルの動きや見せ方を確認しながらショー構成を具体化する。				
5	9-10	キッズショーリハーサル	リハーサルを行い、ショー全体の流れを確認する。				
6	11-12	キッズショー実施・振り返り	キッズショーを実施し、ショーの振り返りを行う。				
7	13-14	アイデア発想	卒業記念展の作品制作に向けて、デザインの基となるアイデアを多角的な視点で捉えられるように、トレンド、歴史、美術、芸術、手工芸等を加味しながらアイデアトレーニングを行う。				
8	15-16	フォルムの研究	卒業記念展の作品制作に向けて、フォルムの研究を行いダーツを自由にデザインへと落とし込む方法を習得する。また、建築や美術に見られる造形の理解を深める。				
9	17-18	柄について	卒業記念展の作品制作に向けて、様々な国や地域の柄をリサーチしながらテキスタイルの基となる柄域の理解を深める。				
10	19-20	手工芸について	卒業記念展の作品制作に向けて、様々な国や地域の手工芸をリサーチしながらテキスタイル、デザインの基となる技術の理解を深める。				
11	21-22	8大感性について	卒業記念展の作品制作に向けて、感性別に理解を進めながら、イメージの方向性を決めていく。				
12	23-24	グルーピング	卒業記念展の作品制作に向けて、感性毎にグループを作り、それぞれが特徴をもったチームになるように分けていく。				
13	25-26	テーマ設定、コンセプト設定	卒業記念展の作品制作に向けて、チームで設定した感性を基に、テーマを決めていく。また、設定したテーマを基に、トレンドや世界情勢等を今のファッションに取り込みながらコンセプトを設定する。				
14	27-28	テキスタイルについて、まとめ	卒業記念展の作品制作に向けて、設定したテーマ、コンセプトを基に服地となる素材のリサーチを行いながらクリエイティブなテキスタイル制作を行っていく。				
15							
準備学習 (予習・復習)	演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。						
その他 (授業に際しての注意点)	授業意欲として日頃から、新しい知識や技術、トレンド、世界情勢等の情報に触れながらの創作活動を推奨する。また、講義内容に対しても積極的に質問を行い、自己で理解しながら出来ることが望ましい。ほかに、グループでのディスカッションを行いチームとしてプロジェクトを遂行していくことを推奨する。2年次の卒業記念展の作品制作に繋げていく。						

授業科目等の概要

学 科	服飾専門課程		ファッションテクニカル科				1年						
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野の設計において、CADを活用した衣服設計を行える技術を身につけ、製造において、素材の特性を理解しながら生産工程の効率化を図るスキルを習得し即戦力となる縫製士やパタンナーを育成する。同時に品質管理における「Quality (品質)」「Cost (価格)」「Delivery (納期)」「Safety (安全)」に必要な能力を磨き、多能工技能者として育成する。												
分 類	必修	<input type="radio"/>	選択		配当年次	1 年	学 期	通 年	<input type="radio"/>	前 期		後 期	
種 別	流通・販売				授業形態	講義		演習	<input type="radio"/>	実習			
授業科目	市場調査 I				単 位	1単位							
担当教員	山崎 菜穂子				職業実践専門課程：企業との連携								
※実務家教員	<input type="radio"/>	洋裁のできるコワーキングスペースでの糸作りや服作り・ワークショップ・運営経験を活かし、洋裁の楽しさや生地ができるまでの工程、素材の違い・種類・加工について触れ、素材の大切さを伝えることができる。また、婦人子供服製造技能士2級取得の能力を活かし、服作りの製造過程を伝授・補助する。											
資格検定											必修		選択
授業概要	市場で販売されている既製服を実際に販売店舗を訪れて、どのような縫製仕様や着心地になっているのかを調査する。また価格の違いによる縫製仕様の違い、素材・付属品の違い等を調査し、今後制作するソーイング課題や作品作りに活かすとともに、将来の仕事にも繋げていけるよう平面画や縫製仕様付きのレポートにまとめる。												
学習成果	①	市場の既製服の縫製仕様を理解する。				成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果		%			
	②	平面画や縫製仕様を書けるようにする。					2	提出物/期限遵守	80	%			
	③	市場調査の効果、役割を理解する。					3	独創性/習熟度		%			
	※	素材や価格に見合った縫製仕様を考える。					4	意欲・授業態度	20	%			
使 用 材	●KFDオリジナルプリント配布												

前期授業計画 (4月-9月)			授業目的・準備学習 (予習・復習) 内容	
1	1-2	福岡市内の生地屋調査	福岡市内の生地屋を訪問、ネットの生地屋や問屋についても調査。どのような素材や付属・手芸用品があるか、生地屋ごとにどのような特徴があるのかを調査し、理解する。(予習：市内の生地屋がどこにあるかやネットの生地屋について調べておくこと。)	
2	3-4	ブランド調査	興味を持ったブランドについて調査し、歴史やシルエット・ディテールなどコラージュし理解を深める。(予習：興味のあるブランドの歴史を調べ、特徴的な服を画像にて収集し、印刷して準備しておくこと。)	
3	5-6	既製服・スカート各種と素材	制作物であるスカートの市場で販売されている縫製仕様・デザイン・素材・着心地を調査・理解し、作品制作に活かす。(予習：スカートの種類を調べ、現地で調査するものを確定しておくこと。)	
4	7-8	既製服・ブラウス各種と素材	製作物であるブラウスの市場で販売されている縫製仕様・デザイン・素材・着心地を調査・理解し、作品制作に活かす。(予習：ブラウスの種類を調べ、現地で調査するものを確定しておくこと。)	
5	9-10	既製服・子供服調査	文化祭制作物である子供服の市場で販売されているブランドのデザイン・素材を調査をし、製作に活かす。文化祭制作物である子供服の市場で販売されている縫製仕様・理解し、製作に活かす。(予習：どのような子供服ブランドがあるか調べておくこと。)	
6	11-12	既製服・衿、袖 (部分) 調査	市場で販売されているアイテムの袖や衿について縫製仕様・デザイン・素材を調査し、理解する。(予習：ネットにて衿の形や袖の形について実際に調査するための素材を集めておくこと。)	
7	13-14	既製服・生地、素材調査① (スーツ)	実際に製作するスーツの生地や素材・着心地について研究と調査する。(予習：スーツの販売店を調べておくこと。)	
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

通 年

2026年 ファッションテクニカル科1年シラバス

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習 (予習・復習) 内容
1	1-2	既製服・ジャケット調査	制作物であるジャケットの市場で販売されている縫製仕様・デザイン・素材・着心地を調査・理解し、作品制作に活かす。(予習:どの店舗のジャケットを調査するか、事前に調べておくこと。)
2	3-4	既製服・ポケット調査	市場で販売されているアイテムの切り込みのあるポケットの縫製仕様・デザイン・素材を調査し、理解する。
3	5-6	既製服・生地、素材調査② (ブラウス)	生地や素材を調査したのち、実際に生地を探し、自ら考え、既製服として成り立つブラウスを制作できるか理解を深め実行する。(予習:作ってみたいブラウスの画像を調べ、画像を出力し準備しておくこと。)
4	7-8	既製服・ディテール (部分) 調査	市場で販売されているアイテムのディテール (フリル・タック・ギャザー・パイピングなど) の縫製仕様・デザイン・素材を調査し、理解する。
5	9-10	既製服・縫い代の始末 (部分) 調査	市場で販売されているアイテムの縫い代の始末の仕様を調査し、理解する。
6	11-12	既製服・シルエット調査	市場で販売されているワンピースなどのシルエットを調査し、分類できるようにする。
7	13	まとめ	提出したレポートをファイルにまとめ・整理し、復習作業をする。
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
準備学習 (予習・復習)		演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		市場で販売されている色々な既製服の縫製仕様はもちろんのこと、それを表現できる平面画や仕様の絵を丁寧に描き、相手に伝わりやすいようにする。また、パターンにも反映できるように理解を深める。そして、ショップ定員とコミュニケーションをはかり、売れ筋や商品のポイントを聞き、実際に着用できるものは出来るだけ試着をし、着心地等にも気を配る。	

授業科目等の概要

学 科	服飾専門課程		ファッションテクニカル科				1年															
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野の設計において、CADを活用した衣服設計を行える技術を身につけ、製造において、素材の特性を理解しながら生産工程の効率化を図るスキルを習得し即戦力となる縫製士やパタンナーを育成する。同時に品質管理における「Quality (品質)」「Cost (価格)」「Delivery (納期)」「Safety (安全)」に必要な能力を磨き、多能工技能者として育成する。																					
分 類	必修	○	選択	配当年次	1	年	学 期	通 年	○	前 期	後 期											
種 別	総論				授業形態	講義	○	演 習	実 習													
授業科目	服飾造形論 I				単 位	2単位																
担当教員	江端 由恵・溝口 希弥子				職業実践専門課程：企業との連携																	
※実務家教員	○	江端：洋服リメイク企業にて縫製、接客、店舗運営に従事し、衣服の修理・リメイクに関する実務経験を有する。現場で培った技術と経験を基に、実務に即した縫製技術およびものづくりの基礎力の育成を指導する。2024年婦人子供服製造技能士1級取得。																				
資格検定											必修	選択										
授業概要	衣服の起源から現代まで、ファッションの歴史を学び、社会の変化とファッションの関係性の理解を深める。衣服制作において必要な用具の使用方法や縫製用具の基礎知識を身につける。また、人体の構造を把握し衣服制作するに当たり必要な計測の仕方を学ぶ。さらには衣服制作において必要な素材の扱い方や付属材料、裁断縫製に関する知識を身につける。																					
学習成果	① 服作りに必要な用具、材料の基礎知識を学習する。 ② 製図をするために必要な原型、ボディ、人体計測等を学習する。 ③ 製造の流れ、製図、裁断、縫製の基礎知識を学習する。 ※ 服作りに関する多方面の基礎知識を習得する。				成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)		1	定期試験結果	70	%	2	提出物/期限遵守	20	%	3	独創性/習熟度		%	4	意欲・授業態度	10	%
使 用 材	●文化ファッション大系 服飾造形講座① ●文化学園服飾博物館刊 ヨーロピアンモード ●KFDオリジナルプリント配布 ●ボディ、ボディライン、ソーイングセット																					

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	導入、古代、中世、近世 (18世紀ロココスタイル～)	服装史の発展、服の役割、変遷の概要を理解する。 該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
2	3-4	近世 (18-19世紀市民革命と産業革命)、第1～第2帝政時代 エンパイア、ロマンティック、クリノリン、バツル等	政治、経済、文化が密接につながっていることを実感させる。 該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
3	5-6	現代 (1910～1940年代)	1910-1040年今のファッションにつながる20世紀の流れを理解する。 該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
4	7-8	現代 (1950～1970年代)	1950-1970年今のファッションにつながる20世紀の流れを理解する。 該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
5	9-10	現代 (1980～21世紀) と、まとめテスト実施	1980-21世紀 ファッションの全体の流れを俯瞰して理解する。 該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
6	11-12	衣服制作のための用具と名称及び使用方法、ミシン・アイロン・ 特殊ミシンの基礎知識	衣服制作に関する用具の基礎知識の習得。 (予習：服飾造形の基礎P32～P43、P154に目を通し確認しておくこと)
7	13-14	裁断・縫製の基礎知識(地直し、表裏の見分け方、布幅)、針と糸 の種類と用途	生地を知り、裁断、縫製の基礎知識を学ぶ。また、素材に合った針、糸の 選び方、種類の学習。(予習：服飾造形①のP130～132、P138～139)
8	15-16	衣服制作のための人体計測、人体の方位(ボディライン入れ)	衣服制作のために必要な採寸を学習。(予習：服飾造形①のP44～63に目 を通し確認しておくこと)
9	17-18	文化式原形の理解・書き方、平面作図の基礎	文化式原形の理解。原型の各部名称と書き方を通して各身体寸法を理解す る。工業用パターン記号、定規の使い方を理解する。 (予習：服飾造形①のP74～P87に目を通し確認しておくこと)
10	19-20	副資材(ファスナー・釦・前カン・ホック・接着芯)	ソーイングと関連する副資材について理解する。(予習：服飾造形①の P124、P127、129、134に目を通し確認しておくこと)
11	21-22	マーキング、柄合わせについて	裁断するための基礎知識の学習。マーキングとは何かを学び、柄合わせに 必要な知識の学習。(予習：服飾造形①のP132、服飾造形③P52～53に目 を通し確認しておくこと)
12	23-24	仕様書について(見方・基礎)	仕様書とは何か、また必要性を学び、実際に書いてみる。(復習：セミタ イストスカートの工程表を書く)
13	25	工程表について(見方・基礎)	工程表とは何か、また必要性を学び、実際に書いてみる。(復習：ブラウ スの工程表を書く)
14			
15			

通 年

2026年 ファッションテクニカル科1年シラバス

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	トワルの基礎知識(型出し・修正方法)、原型補正	型出しの修正方法を学ぶ。また、自分のサイズ、体型に合った原型作り、及び補正。(予習: 服飾造形①のP92~105に目を通し確認しておくこと)
2	3-4	副資材(肩パットの役割・芯地・伸び止めテープ)、ウール地の扱いについて	ジャケット製作のための副資材の基礎知識の学習。ウール素材について学ぶ。(予習: 服飾造形①のP118~129に目を通し確認しておくこと)
3	5-6	芯地と裏地の種類と用途、目的と役割	芯地と裏地の基礎知識を学び、種類や用途、衣服における役割について理解する。(予習: 服飾造形①のP118~129に目を通し確認しておくこと)
4	7-8	仮縫い補正について	タイトスカートの仮縫いの着用状態を観察し、体型に応じた補正方法を理解し、補正内容をパターンへ反映する力を養う。(予習: 服飾造形② P83~85に目を通し、仮縫い補正の内容を確認しておくこと。復習: 授業で行った補正内容を整理し、パターンへの反映方法を確認する。)
5	9-10	縫製工程表の書き方1	縫製工程表の書き方を学び、実習で行った縫製工程を整理して理解する。(予習: ソーイング実習で行った制作工程を振り返り、制作物の工程を整理しておくこと。)
6	11-12	縫製工程表の書き方2	縫製工程表を作成し、縫製工程の流れと各工程の内容について理解を深める。(予習: 前回作成した縫製工程表を確認し、不明点や不足している工程を整理しておくこと。)
7	13-14	縫製仕様書の基礎・書き方	縫製仕様書の書き方を学び、スーツ制作に必要な基本的な仕様内容を理解する。
8	15	ファイル整理、まとめ	スーツ制作におけるパターンメイキング、仕様書、工程書、芯貼り指図書の内容と役割を整理し、制作工程への理解を深める。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
準備学習 (予習・復習)		講義に関しては、1時間の講義に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、15時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		前期では衣服制作の基礎知識を学び、後期ではウール素材による裏地付きスーツ制作を想定した知識を学ぶ。アパレル製品はパターンメイキング、仕様書、工程表などを基に生産されるため、本授業ではそれらの基本的な知識と役割を理解する。 また、アパレル産業における製品生産の基本的な流れを理解することを目的とする。	

授業科目等の概要

学 科	服飾専門課程		ファッションテクニカル科				2年								
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野の設計において、CADを活用した衣服設計を行える技術を身につけ、製造において、素材の特性を理解しながら生産工程の効率化を図るスキルを習得し即戦力となる縫製士やパタンナーを育成する。同時に品質管理における「Quality (品質)」「Cost (価格)」「Delivery (納期)」「Safety (安全)」に必要な能力を磨き、多能工技能者として育成する。														
分 類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	2	年	学 期	通 年	<input type="radio"/>	前 期	<input type="checkbox"/>	後 期	<input type="checkbox"/>	
種 別	パソコン				授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="radio"/>	実習	<input type="checkbox"/>				
授業科目	アパレルCAD I				単 位	2単位									
担当教員	白濱 由佳理				職業実践専門課程：企業との連携										
※実務家教員	<input type="radio"/>	アパレル企業で培ったCADパタンナーの実務を活かし、実務性の高いアパレルCAD操作方法を教授する。													
資格検定												必修	<input type="checkbox"/>	選択	<input type="checkbox"/>
授業概要	東レクレアコンポのソフトを使用しアパレルCADの基本操作の講義。主に原型操作・スカートのデザイン展開をしながら「パターンマジックII」の操作方法を習得する。後期からは工業用パターン作成までの手順を学び、企業パタンナーが実務として行っている有型からのデザイン展開に実際に取り組んで理解を深めていく。最後には他授業で制作したアイテムの工業用パターン作成・マーキング・工程分析を作成し、工場に出すまでの流れを実践する。														
学習成果	①	東レクレアコンポのアパレルCADの基本操作を身につける。				成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果		%					
	②	パターンを理解した操作方法を覚えていく。					2	提出物/期限遵守	40	%					
	③	アパレルCADに慣れ、工業用パターンを作図できるようになる。					3	独創性/習熟度	40	%					
	※	手引きより早く操作できるアパレルCADに慣れ基本操作を習得する。					4	意欲・授業態度	20	%					
使 用 材	●KFDオリジナル実習プリント配布														

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業目的・準備学習 (予習・復習) 内容
1	1-2	アパレルCADについて・基本操作	東レCAD (パターンマジックII) の基本操作を学ぶ。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
2	3-4	ダーツの移動1	身頃のダーツ展開をしながらCADの基本操作、並びにパターン操作を理解する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
3	5-6	ダーツの移動2	身頃のダーツ展開をしながらCADの基本操作、並びにパターン操作を理解する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
4	7-8	ダーツの移動3	身頃のダーツ展開をしながらCADの基本操作、並びにパターン操作を理解する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
5	9-10	ダーツの移動4	身頃のダーツ展開をしながらCADの基本操作、並びにパターン操作を理解する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
6	11-12	ダーツの移動5~	ダーツ展開4までで習得した操作方法を復習しながら各自でダーツ展開の問題を解かせ、CADの操作方法を、並びにパターン操作方法をより理解する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
7	13-14	タイトSKからセミタイトSKへ展開	タイトスカートの展開で操作方法をより深く学ぶ。パターンチェックの方法もここで初めて操作し覚える。
8	15-16	セミタイトSKからプリーツSKへ展開 (1)	切り替えがあるパターンを制作し、プリーツを入れる操作を理解する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
9	17-18	セミタイトSKからプリーツSKへ展開 (2)	切り替えがあるパターンを制作し、プリーツを入れる操作を理解する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
10	19-20	タイトSKからゴアードSKへ展開	切り開く寸法を把握し、ゴアードスカートへ展開する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
11	21-22	タイトSKからマーメイドSKへ展開 (1)	マーメイドSKへ展開しながらこれまで学んだ操作方法の応用を使い、校率良い作図方法を習得する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
12	23-24	タイトSKからマーメイドSKへ展開 (2)	マーメイドSKへ展開しながらこれまで学んだ操作方法の応用を使い、校率良い作図方法を習得する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
13	25-26	確認テスト対策 (1)	これまで学んだ操作方法を反復学習し、よりCAD操作を身につける。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
14	27-28	確認テスト対策 (2)	これまで学んだ操作方法を反復学習し、よりCAD操作を身につける。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
15	29-30	確認テスト	テキストを見ずに確認テストを行うことで個人の理解度・苦手な部分を把握する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。

通 年

2026年 ファッションテクニカル科2年シラバス

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	確認テスト復習・裏地パターンの作成	確認テストの間違った部分を把握させる。また裏地パターンの作成手順を学ぶ。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
2	3-4	工業用パターンの作成・芯パターン作成	縫い代がついた工業パターンへの作成手順を学ぶ。芯パターン作成方法を学ぶ。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
3	5-6	縫い代つけ練習	縫い順序や縫製仕様書に適した縫い代の付け方を理解し学ぶ。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
4	7-8	マーキング	東レ(マーカーマジック)を使用したマーキングを行い、操作方法、並びにマーキングを理解する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
5	9-10	有型からのデザイン展開 (1)	企業で行われている有型からの修正を行い、実践力身に付ける。またマーキングや仕様書の記入方法についての理解も深める。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
6	11-12	有型からのデザイン展開 (2)	企業で行われている有型からの修正を行い、実践力身に付ける。またマーキングや仕様書の記入方法についての理解も深める。
7	13-14	有型からのデザイン展開 (3)	企業で行われている有型からの修正を行い、実践力身に付ける。またマーキングや仕様書の記入方法についての理解も深める。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
8	15-16	有型からのデザイン展開 (4)	企業で行われている有型からの修正を行い、実践力身に付ける。またマーキングや仕様書の記入方法についての理解も深める。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
9	17-18	トレース・パターン確認と修正	CADスキャナで取り込んだ手書きのパターンをCADパターンにするためのトレースを学ぶ。またトレースしたパターンの修正・確認方法を学ぶ。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
10	19-20	スキャンデータ(制作物)を工業用パターンへ(1)	ソーイングで制作したアイテムパターンのスキャンデータからトレースを行い工業用パターンまで制作する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
11	21-22	スキャンデータ(制作物)を工業用パターンへ(2)	ソーイングで制作したアイテムパターンのスキャンデータからトレースを行い工業用パターンまで制作する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
12	23-24	平面画の作成	平面画の作成方法を学び、前回のアイテムの平面画を作成する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
13	25-26	工程分析表の作成	同アイテムの工程分析を各自考え、CADで工程分析表を作成する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
14	27-28	グレーディング	東レ(グレーディングマジック)を使用したグレーディングの操作方法を学ぶ。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
15	29-30	復習・まとめ	基本操作の総復習を行う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
準備学習 (予習・復習)		演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		パソコン操作に慣れた学生は、やや習得が早く見受けられるが、パターンの基礎能力が基となるためパターンメイキングを理解した上でCADを操作することが好ましい。前期試験をする際に練習を沢山することにより、習熟度が高くなる。また、後期では各種アイテムのパターンメイキングを十分理解しておく必要がある。	

授業科目等の概要

学 科	服飾専門課程 ファッションテクニカル科 2年											
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野の設計において、CADを活用した衣服設計を行える技術を身につけ、製造において、素材の特性を理解しながら生産工程の効率化を図るスキルを習得し即戦力となる縫製士やパタンナーを育成する。同時に品質管理における「Quality（品質）」「Cost（価格）」「Delivery（納期）」「Safety（安全）」に必要な能力を磨き、多能工技能者として育成する。											
分 類	必修	○	選 択	配当年次	2	年	学 期	通 年	○	前 期	後 期	
種 別	総論						授業形態	講義	○	演 習	実 習	
授業科目	アパレル素材Ⅱ						単 位	3単位				
担当教員	山崎 菜穂子						職業実践専門課程：企業との連携					
※実務家教員	○	洋裁のできるコワーキングスペースでの糸作りや服作り・ワークショップ・運営経験を活かし、洋裁の楽しさや生地ができるまでの工程、素材の違い・種類・加工について触れ、素材の大切さを伝えることができる。また、婦人子供服製造技能士2級取得の能力を活かし、服作りの製造過程を伝授・補助する。										
資格検定											必修	選 択
授業概要	アパレル製品の企画、デザイン、縫製、販売に必要な不可欠な知識である「テキスタイル」。2年次では、アパレル素材に関する原料・糸・組織・仕上げ・意匠などの基礎知識を学び、素材に応じてファッション衣料の取り扱いが出来る技能を身に付ける。また、基礎知識を活かしたテキスタイル制作や作品制作をおこない、技術の習得に励む。□											
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> ① アパレル素材に関する基礎知識を習得。 ② 基礎知識を活かし、習得した素材のサンプル作品を制作する。 ③ テキスタイル産地・特徴の理解する。 ※ 素材に応じた衣料の取り扱いが出来るようになる。 						成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)		1	定期試験結果	60	%
							2	提出物/期限遵守	10	%		
							3	独創性/習熟度	10	%		
							4	意欲・授業態度	20	%		
使 用 材	<ul style="list-style-type: none"> ●テキスタイルハンドブック ●服地の基本がわかる テキスタイル事典 ●KFDオリジナルプリント配布 											

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)				授業目的・準備学習(予習・復習)内容			
1	1	繊維について(天然・化学繊維の種類、特徴)・復習テスト	アパレル素材の基本的な繊維組織について再度学び、理解を深める。(復習:1年次に学習した繊維について復習し、復習テストに備える)				
2	2	糸、織物について	服作りの材料となる生地を糸の組織から勉強し、布帛生地の組織構造と織り方、特徴を理解する。また、糸の種類や使用用途について学ぶ。(予習:1年生の時のプリントの再確認をしておくこと。)				
3	3-5	織物 テキスタイル・作品制作(6で作品提出)	手織り機を使用し、三原組織を自ら織ることで、織り物の組織・特徴を理解し、1つの作品を作る。(事前準備:作品作りのための材料を準備し、持参する事。)				
4	6-7	テキスタイル産地について・小テスト	日本に数多くあるテキスタイル産地より、国内でメジャーな産地・素材・テキスタイル・技法などを学び、日本国内の素材の理解を深める。後期の最後にそれぞれ研究した産地の発表をする。				
5	8-9	レース・フォーマルウェア素材について(種類、特徴、使用用途、取り扱い方)レース作品制作	レースの種類による特徴や、使用用途、扱い方についてプリントや生地を実際に見て触り、理解する。(復習:レースの種類や特徴について復習しておくこと。次回の小テストにて再確認を行う。)				
6	10-11	レース作品制作・小テスト	実際にレース生地フォーマルウェアに合う小物の作品制作をし、取り扱い方を知る。(事前準備:作品作りのための材料を準備し、持参する事。)				
7	12	レース作品制作	実際にレース生地フォーマルウェアに合う小物の作品制作をし、取り扱い方を知る。(事前準備:作品作りのための材料を準備し、持参する事。)				
8	13-17	織物産地(工場見学)	実際に工場へ行き、自分の目で織物がどのように作られているか見て学び、特徴を理解する。また、事前にテキスタイル産地について調査し、知識を深める。(予習:実際に見学をする工場について、調べてまとめておくこと。)				
9	18-19	ニット(編み)について(組織と特徴)	アパレル市場においてかかせないニット(編み)の組織を勉強し、ニットの組織構造と編み方、特徴を理解する。(復習:織物について復習しておくこと。次回の小テストにて再確認を行う。)				
10	20	ニット(編み)テキスタイル制作・小テスト	基本的な棒針編み又はかぎ針編みをおこない、ニット(編み)の組織・特徴を理解する。(事前準備:作品作りのための材料を準備し、持参する事。)				
11	21-22	PM2級検定対策	PM2級の検定対策を行い、合格を目指す。(復習:対策問題を再度確認し、理解を深め検定に挑む。)				
12	23-24	捺染の技法と特徴	捺染(プリント)の技法の種類・特徴を学ぶことで、捺染素材の種類を見分ける能力を身に付ける。(予習:テキスタイル辞典P52~P64に目を通す。復習:捺染について復習しておくこと、次回の小テストにて再確認を行う。)				
13	25-26	天然染料による染色	天然染料を使用し、染色の仕方や変化・風合いを知る。				
14	27-29	天然染料による染色・小テスト	天然染料を使用し、染色の仕方や変化・風合いを知る。また作品制作のための準備も行う。				
15	30	まとめ、前期試験対策・模擬テスト	前期でのプリントやノートの整理・復習をする。				

通 年

2026年 ファッションテクニカル科2年シラバス

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1	前期復習テスト	前期で学んだ、アパレル素材の知識を再確認するために、テストを行う。 (予習：前期の内容をプリントや教科書にて確認しておくこと。)
2	2-5	ステンシル作品作り・小テスト	捺染技法の一つを用いて、作品を制作し理解を深める。(事前準備：作品作りのための材料を準備し、持参する事。)
3	6-7	柄について	基本的な柄を配布プリントや実際のテキスタイルを見て理解を深める。 (予習：テキスタイル辞典P232～P296に目を通す。復習：柄の種類について復習しておくこと。次回の小テストにて再確認を行う。)
4	8-9	染色(作品制作)・小テスト	染色したものを使用し、実際に作品作りを行い、染色した物の取り扱い方について理解する。(事前準備：作品作りのための材料を準備し、持参する事。)
5	10-11	製品の取り扱い方(洗濯・染み抜き)	JISからISO規定へと変わった洗濯表示を勉強し、製品の取り扱いを理解する。また、製品の取り扱いで一番身近な洗濯や染み抜きについて種類や特徴を学び、それに即した方法を理解する。(復習：洗濯や染み抜きについて復習しておくこと。次回の小テストにて再確認を行う。)
6	12	製品の取り扱い方実技・小テスト	布地について理解を深めたくうえで、洗濯や染み抜きについて実際に取り組み、理解する。
7	13-14	加工について	進歩していくテクノロジーにより、アパレル素材としての価値を高める加工技術が日々生み出されている。その種類・性能を知ることにより、アパレル素材への理解を深める。(復習：加工について復習しておくこと。次回の小テストにて再確認を行う。)
8	15-16	プリント加工の作品制作・小テスト	加工技術の一つである「プリント加工」を実践的に理解し、プリント加工に合った作品制作をする。(事前準備：作品作りのための材料を準備し、持参する事。)
9	17	プリント加工の作品制作	加工技術の一つである「プリント加工」を実践的に理解し、プリント加工に合った作品制作をする。(事前準備：作品作りのための材料を準備し、持参する事。)
10	18-21	プリント加工について(工場見学)	実際に加工技術のある企業へ行き、自分の目で見てアパレル企業で使われているプリント生地がどの様に作られているのを知る。(予習：実際に見学をする工場について、調べてまとめておくこと。)
11	22-23	皮革の特徴	繊維から出来る素材のほかに、動物からとれる皮革や毛皮の種類や特徴を学び理解する。(復習：皮革について復習しておくこと。次回の小テストにて再確認を行う。)
12	24-25	皮革作品制作	皮革(牛革)を使用し、小物製作を行う。皮革の裁断方法や床面・端(コバ)の処理の仕方や皮革の基本的な扱い方を実践的に理解する。
13	26-27	皮革作品制作・小テスト	皮革(牛革)を使用し、小物製作を行う。(事前準備：作品作りのための材料を準備し、持参する事。)
14	28	繊維テキスタイル認定資格・手芸検定問題	繊維テキスタイル資格の問題を用いて繊維やテキスタイルの知識の定着を図る。(復習：再度、問題を解き理解を深める。)
15	29-30	後期試験対策・1年間まとめ・模擬テスト	プリントで知識の再確認と後期試験に向けての対策を行う。また、1年間の総まとめをし、アパレル素材についての理解を深め、身に着ける。
準備学習 (予習・復習)		講義に関しては、1時間の講義に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、15時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		就職した際に企業や工場で困らないよう、ソーイング授業での制作物以外の生地によく触れ、様々な素材での作品制作を通し、生地の扱い方を肌で感じる事が重要である。さらに、日々の生活でも服飾学生としてアパレル素材を意識し、自身の知識や技術の向上につなげてほしい。	

授業科目等の概要

学科	服飾専門課程										ファッションテクニカル科										2年	
D P / 学科人材育成	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野の設計において、CADを活用した衣服設計を行える技術を身につけ、製造において、素材の特性を理解しながら生産工程の効率化を図るスキルを習得し即戦力となる縫製士やパタンナーを育成する。同時に品質管理における「Quality (品質)」「Cost (価格)」「Delivery (納期)」「Safety (安全)」に必要な能力を磨き、多能工技能者として育成する。																					
分類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	2年		学期	通年		<input type="radio"/>	前期	<input type="checkbox"/>	後期	<input type="checkbox"/>							
種別	服飾造形										授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="checkbox"/>	実習	<input type="radio"/>					
授業科目	ソーイングⅡ										単位	16単位										
担当教員	野田部 寛之・山崎 菜穂子										職業実践専門課程：企業との連携										<input type="radio"/>	
※実務教員	<input type="radio"/>	(野田部) 全技連マスターとして技能五輪全国大会の実技指導経験、日本ファッション教育振興協会パターナーメーキング技術検定委員、ものづくりマスターとして教育訓練機関の若年者に対しての実技指導経験、また婦人子供服製造技能士1級取得の能力を活かし、服のプロダクトについてのノウハウを教授する。 (山崎) 洋服のできるコワーキングスペースでの糸作りや服作り・ワークショップ・運営経験を活かし、洋服の楽しさや生地ができるまでの工程、素材の違い・種類・加工について触れ、素材の大切さを伝えることができる。また、婦人子供服製造技能士2級取得の能力を活かし、服作りの製造過程を伝授・補助する。																				
資格検定	技能検定2級 婦人子供服注文服製作作業															必修	<input type="checkbox"/>	選択	<input type="radio"/>			
授業概要	パタンナーやデザイナーの意図をくみ取り、縫製仕様書に従い裁断した生地を、素材特性や柄などに配慮しつつ、ミシン作業、アイロン作業、最終仕上げまで各種部分縫いを交えながらより良い製品を作る技術を習得する。また、薄地素材、伸縮素材、ウール地など様々な素材に対応しながらアパレル縫製技術をマスターすることを目標とする。																					
学習成果	①	アパレル縫製の習得。										成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果		%						
	②	アイテム毎の縫製スキルの習得。											2	提出物/期限遵守	20	%						
	③	素材別縫製スキルの習得。											3	独創性/習熟度	60	%						
	※	作業性と完成度の高い製品作りを目指す。											4	意欲・授業態度	20	%						
使教材	●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④⑤⑥⑦																					

前期 授業計画 (4月-9月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容			
1	1-18	ワンピース 明き、ポケット縫製	素材の特性を理解しながら、明き、ポケットの縫製法の理解を深める。ピンを使わない能率的な縫製を習得する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
2	19-37	ワンピース 型だし、パターン修正	デザイン画を論理的に解釈し、ワンピースの各パーツを型出す。トワル確認後のシルエットや可動域を分析し、ダーツ処理やゆとり量の再配分を精査して、縫製に適した高精度な型へ修正する能力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
3	38-56	ワンピース 裁断、前工程	地の目を正しく通した正確な裁断と、芯貼り・伸び止めテープ・ロックミシン等の前工程を習得する。縫製時の型崩れを防ぎ、設計意図を忠実に再現するための準備能力と精度管理を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
4	57-75	ワンピース 縫製	ワンピースの縫製工程を習得し、ファスナー明きやポケット等の細部仕様を正確に仕上げる。縫製指示に基づき、パーツ間の整合性とアイロンワークを徹底することで、製品としての完成度を高める実践力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
5	76-94	ワンピース 縫製	ワンピースの縫製工程を習得し、ファスナー明きやポケット等の細部仕様を正確に仕上げる。縫製指示に基づき、パーツ間の整合性とアイロンワークを徹底することで、製品としての完成度を高める実践力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
6	95-113	パンツ 前明き、ポケット縫製	パンツ特有の前明きファスナー構造と、脇や後ろポケットの縫製技法を習得する。重なり順や左右のバランス、厚みへの対処を学び、実用的な強度と美しさを兼ね備えた細部仕様を正確に仕上げる実践力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
7	114-132	パンツ 型だし、パターン修正	デザインに基づき、パンツの各パーツを型出す技術を習得する。トワル確認後の股ぐりの食い込みや、渡り幅、裾へのつながりを分析し、運動量とシルエットを両立させた高精度な型へ修正する能力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
8	133-151	パンツ 裁断、前工程	厚地素材の特性を考慮した正確な裁断と、ジーンズ特有の前工程を習得する。袋布の構成、芯貼り、伸び止めテープ、打込みパーツの位置確認を徹底し、堅牢な製品製作のための下準備を整える。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
9	152-170	パンツ 縫製	ジーンズ特有のステッチワークを習得し、堅牢な製品を仕上げる。厚地の重なりに対するミシン操作やアイロンワークを学び、バックヨークやポケット等のディテールを正確に構築する実践力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
10	171-189	パンツ 縫製	ジーンズ特有のステッチワークを習得し、堅牢な製品を仕上げる。厚地の重なりに対するミシン操作やアイロンワークを学び、バックヨークやポケット等のディテールを正確に構築する実践力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
11	190-208	ブルゾン 明き、ポケット縫製	フロントオープンファスナーや、箱ポケット等の高精度なポケット縫製技法を習得する。見返しとの重なりや左右の高さの整合性を学び、アウターとしての機能性と見栄えを両立させた精密な仕上げ能力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
12	209-227	ブルゾン 裁断、前工程	アウター特有の複雑なパーツ構成を理解し、正確な裁断と前工程を習得する。オープンファスナーや箱ポケット等の部位に応じた芯貼り・伸び止めテープ処理を徹底し、仕立て映えのする製品づくりの基礎を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
13	228-246	ブルゾン 縫製	オープンファスナーの据え付け、リブ付け、および「どんでん仕立て」の技法を習得する。裏地との整合性や厚みの分散を学び、アウターとしての機能性と既製服クオリティの美しい仕上がりを目指す。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
14	247-265	カットソー 裁断、前工程、縫製	ニット素材の特性を考慮した裁断と、ロックミシン等を用いた伸縮縫製技法を習得する。差動送りの調節や伸び止め処理を学び、型崩れのない機能的な仕上がりを実現する実践力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
15	266-270	P M検定2級実技対策	検定合格に向け、制限時間内で高精度に仕上げる技術を習得する。袖下のアイロンによる「くせ取り」や、袖山の「くし縫い・いせ込み」等、平面の布を立体化する高精度な中間アイロンと縫合技法を体得する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			

通年

2026年ファッションテクニカル科2年シラバス

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-18	職業実践専門課程	地産産業である久留米産を用い、アパレル企業「美鈴」の新商品サンプルを製作する。小幡生地特有のマーキング(型入れ)や柄合わせを理解し、企業の品質基準に基づいた精密な裁断・縫製技術を習得する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
2	19-37	職業実践専門課程	地産産業である久留米産を用い、アパレル企業「美鈴」の新商品サンプルを製作する。小幡生地特有のマーキング(型入れ)や柄合わせを理解し、企業の品質基準に基づいた精密な裁断・縫製技術を習得する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
3	38-56	職業実践専門課程	地産産業である久留米産を用い、アパレル企業「美鈴」の新商品サンプルを製作する。小幡生地特有のマーキング(型入れ)や柄合わせを理解し、企業の品質基準に基づいた精密な裁断・縫製技術を習得する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
4	57-75	コート 比翼明き、ポケット縫製	コート特有の比翼明きの二重構造を理解し、精密な縫製技法を習得する。厚地に対応した箱ポケット等の高度なディテール構築を学び、アウターに相応しい機能性と高敏感のある仕上がりを実現する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
5	76-94	コート 裁断、前工程	毛足のある素材特有の毛並みを理解し、毛を巻き込まない正確な裁断と前工程を習得する。縫い代の毛刈りや、芯地の熱影響を考慮した補強技法を学び、ボリュームをコントロールし下準備を整える。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
6	95-113	コート 縫製	毛足のある素材特有の縫合技術を習得し、接ぎ目が目立たない自然な仕上がりを目指す。縫い代の毛の掻き出しや、厚みを抑えるステッチ・アイロン技法を学び、ファアの質感を生かした製品を完成させる。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
7	114-132	コート 縫製	毛足のある素材特有の縫合技術を習得し、接ぎ目が目立たない自然な仕上がりを目指す。縫い代の毛の掻き出しや、厚みを抑えるステッチ・アイロン技法を学び、ファアの質感を生かした製品を完成させる。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
8	133-151	コート 縫製	毛足のある素材特有の縫合技術を習得し、接ぎ目が目立たない自然な仕上がりを目指す。縫い代の毛の掻き出しや、厚みを抑えるステッチ・アイロン技法を学び、ファアの質感を生かした製品を完成させる。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
9	152-170	卒業記念展作品制作1	コンセプトに基づき、染色、刺繍、プリント、あるいは複数の素材を組み合わせる二次加工など、作品の核となる「素材作り」を行う。既存の生地独自の意匠を加え、表現の幅を広げる技術を習得する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
10	171-189	卒業記念展作品制作2	自身で構築した素材や特殊素材の地の目、柄、表面の毛並み等を精査し、最適なマーキング(型入れ)を行う。素材の歩留まりを考慮しつつ、縫製時の歪みを防ぐ正確な裁断技術を実践する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
11	190-208	卒業記念展作品制作3	作品のフォルムを美しく保つため、部位や素材の厚みに適した地・伸び止めテープを選定する。素材の風合いを損なわず、縫製をスムーズにするための高度な下準備(前工程)を体得する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
12	209-227	卒業記念展作品制作4	ポケット、衿、明き等の各パーツを仕様に基づき精密に縫製する。素材の厚みが重なる箇所の処理や、高度な「いせ込み」技法を駆使し、パーツ単体での完成度を極限まで高める。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
13	228-246	卒業記念展作品制作5	各パーツを統合し、製品を立体的に組み上げる。裏地との「どんでん仕立て」や、異素材の接合において、ズレや歪みのない堅牢かつ美しい立体縫製技術を習得する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
14	247-265	卒業記念展作品制作6	手縫いによる細部のまどめ、ボタン付け、ボタンホール等を仕上げる。アイロンワークによる「最終プレス」を行い、素材の特性を引き出しながら、展示やランウェイに最適なフォルムへと整える。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
15	266-270	卒業記念展作品制作7	完成した作品を客観的な視点(プロの検品基準)で精査する。縫製の精度、シルエットの再現性、耐久性を確認し、一点物の作品として納品・展示可能なクオリティへ到達させる。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
準備学習 (予習・復習)		ソーイングのような実習教室等における授業に関しては、教室外における1時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、30時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		授業意欲として日頃から、素材についての基礎知識や部分縫いによる学習、市場での縫製仕様を自己で研究することが望ましい。また、実習内容に対しても積極的に質問を行い、自己で理解しながら作品制作が出来、常に技術の向上が図れるように品質と時間管理能力のスキルを身につけることが望ましい。	

授業科目等の概要

服飾専門課程		ファッションテクニカル科		2年										
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野の設計において、CADを活用した衣服設計を行える技術を身につけ、製造において、素材の特性を理解しながら生産工程の効率化を図るスキルを習得し即戦力となる縫製士やパタンナーを育成する。同時に品質管理における「Quality (品質)」「Cost (価格)」「Delivery (納期)」「Safety (安全)」に必要な能力を磨き、多能工技能者として育成する。													
分類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	2年	学期	通年	<input type="radio"/>	前期	<input type="checkbox"/>	後期	<input type="checkbox"/>	
種別	服飾造形			授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="radio"/>	実習	<input type="checkbox"/>				
授業科目	ドレーピングⅡ			単位	1単位									
担当教員	野田部 寛之			職業実践専門課程：企業との連携										
※実務家教員	○ 全技連マイスターとして技能五輪全国大会の実技指導経験、日本ファッション教育振興協会パターンメイキング技術検定委員、ものづくりマイスターとして教育訓練機関の若年者に対しての実技指導経験、また婦人子供服製造技能士1級取得の能力を活かし、服のプロダクトについてのノウハウを教授する。													
資格検定	一般財団法人日本ファッション教育振興協会：パターンメイキング技術検定試験2級										必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>
授業概要	ドレーピングに関する基本的な知識、技術を理解し、身体の構造を読み取りながら、数値にとらわれない感性豊かな服作りが出来る技能を身につける。そしてアイテム、デザイン別にシルエットを作り、布目の重要性、ボディとパターンの関係性、ドラフティングの仕方などの平面製図と比較しながらドレーピングの理解を深める。													
学習成果	①	ダーツの特性を理解する。			成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果		%					
	②	アイテム毎のドレーピングの習得。				2	提出物/期限遵守	60	%					
	③	ドラフティングの習得。				3	独創性/習熟度	20	%					
	※	ディテール各種のドレーピングを習得する。				4	意欲・授業態度	20	%					
使教材	●文化ファッション大系 アパレル生産講座③													

前期 授業計画 (4月-9月)				授業目的・準備学習 (予習・復習) 内容			
1	1-2	フレサカート		布の自重による落ち感(ドレープ)とフレア分量を立体的に操作する技術を習得する。地の目の通し方やバイアス特性を活かした自然で美しいシルエットを追求し、平面作図では困難な立体造形の感覚を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
2	3-4	フレサカート		布の自重による落ち感(ドレープ)とフレア分量を立体的に操作する技術を習得する。地の目の通し方やバイアス特性を活かした自然で美しいシルエットを追求し、平面作図では困難な立体造形の感覚を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
3	5-6	マーメードスカート		マーメイドシルエットの構築技法を習得する。膝周辺の絞りと裾へのフレア展開を立体的に操作し、人体の曲線に沿った美しい切り替えラインと、歩行時の動態を考慮したバランスの良い重心設計能力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
4	7-8	マーメードスカート		マーメイドシルエットの構築技法を習得する。膝周辺の絞りと裾へのフレア展開を立体的に操作し、人体の曲線に沿った美しい切り替えラインと、歩行時の動態を考慮したバランスの良い重心設計能力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
5	9-10	トップス4面体		4面体構成によるトップスの設計理論を習得する。脇身頃を介した前後バランスの調整と人体の厚みを包み込む立体造形を学び、視覚美と機能性を兼ね備えた高度なシルエット構築力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
6	11-12	トップス4面体		4面体構成によるトップスの設計理論を習得する。脇身頃を介した前後バランスの調整と人体の厚みを包み込む立体造形を学び、視覚美と機能性を兼ね備えた高度なシルエット構築力を養う。			
7	13-14	モードコピー		最新コレクションをパタンナーの視点で分析し、独創的なフォルムをドレーピングで再構築する。既存の型に捉われないモード造形を読み解き、自身の感性と設計技術を融合させて表現する応用力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
8	15	モードコピー		最新コレクションをパタンナーの視点で分析し、独創的なフォルムをドレーピングで再構築する。既存の型に捉われないモード造形を読み解き、自身の感性と設計技術を融合させて表現する応用力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

通年

2026年 ファッションテクニカル科2年シラバス

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	トップス2 前、後	デザインを読み取りながら、体の構造の理解を深め構造線やデザイン的な要素の前、後身頃を作成することが出来る。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
2	3-4	トップス2 ドラフティング	組み立てたトワルから地の目を正しながら平面製図に落とし込む。パーツ同士の整合性を考慮したドラフティングの理解を深める。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
3	5-6	袖各種	デザインを読み取りながら体の構造の理解を深め、構造線やデザイン的な要素の前身頃を作成することが出来る。組み立てたトワルから地の目を正しながら平面製図に落とし込む。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
4	7-8	袖各種 ドラフティング	組み立てたトワルから地の目を正しながら平面製図に落とし込む。パーツ同士の整合性を考慮したドラフティングの理解を深める。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
5	9-10	透ける素材 トップス 前身頃	素材の垂れ感を考慮しながら体の凹凸を読み取り、身頃との整合性の理解を進める。構造線やデザイン的なシルエットを制作することが出来る。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
6	11-12	透ける素材 トップス 後ろ身頃	素材の垂れ感を考慮しながら体の凹凸を読み取り、身頃との整合性の理解を進める。構造線やデザイン的なシルエットを制作することが出来る。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
7	13-14	透ける素材 トップス ドラフティング	組み立てたトワルから地の目を正しながら平面製図に落とし込む。パーツ同士の整合性を考慮したドラフティングの理解を深める。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
8	15	透ける素材 トップス ドラフティング	組み立てたトワルから地の目を正しながら平面製図に落とし込む。パーツ同士の整合性を考慮したドラフティングの理解を深める。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
準備学習 (予習・復習)	演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。		
その他 (授業に際しての注意点)	授業意欲として日頃から、トワルに触れながらトレンドの分析を行い自己研鑽することが望ましい。また、演習内容に対しても積極的に質問を行い、自己で理解しながら作品制作が出来ることが望ましい。とくに、ボディーとトワルを注視しながら自己の主観や審美眼でアイテム作り上げる感性と布目を見ながらピン打ちする技術の反復練習が必要である。		

授業科目等の概要

学科	服飾専門課程										ファッションテクニカル科										2年	
D P / 学科人材育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野の設計において、CADを活用した衣服設計を行うる技術を身につけ、製造において、素材の特性を理解しながら生産工程の効率化を図るスキルを習得し即戦力となる縫製士やパタンナーを育成する。同時に品質管理における「Quality (品質)」「Cost (価格)」「Delivery (納期)」「Safety (安全)」に必要な能力を磨き、多能工技能者として育成する。																					
分類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	2年		学期	通年		<input type="radio"/>	前期	<input type="checkbox"/>	後期	<input type="checkbox"/>							
種別	服飾造形										授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="radio"/>	実習	<input type="checkbox"/>					
授業科目	パターンメイキングⅡ										単位	7単位										
担当教員	野田部 寛之・山崎 菜穂子										職業実践専門課程：企業との連携											
※実務家教員	<input type="radio"/> (野田部) 全技連マスターとして技能五輪全国大会の実技指導経験、日本ファッション教育振興協会パターンメイキング技術検定委員、ものづくりマスターとして教育訓練機関の若年者に対しての実技指導経験、また婦人子供服製造技能士1級取得の能力を活かし、服のプロダクトについてのノウハウを教授する。 <input type="radio"/> (山崎) 洋裁のできるコワーキングスペースでの糸作りや服作り・ワークショップ・運営経験を活かし、洋裁の楽しさや生地ができるまでの工程、素材の違い・種類・加工について触れ、素材の大切さを伝えることができる。また、婦人子供服製造技能士2級取得の能力を活かし、服作りの製造過程を伝授・補助する。																					
資格検定	一般財団法人日本ファッション教育振興協会：パターンメイキング技術検定試験2級										必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>								
授業概要	人体の基本構造、体型を理解しながら立体的な服の設計が出来るスキルを身につける。また服種別、シルエット各種のパターンメイキングを習得すると共に素材に応じて、ゆるみや厚み分を考慮したパターン展開法を身につけて、生産に向けた量産パターン（縫い代付け、合印、グレーディング）の知識、技術を習得する。																					
学習成果	①	ダーツの特性を理解する。										成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果	60	%						
	②	アイテム毎のパターンメイキングの習得。											2	提出物/期限遵守	10	%						
	③	量産パターンの習得。											3	独創性/習熟度	10	%						
	※	サイズ展開を含めたアパレルパターンを理解する。											4	意欲・授業態度	20	%						
使用教材	●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④⑤⑥⑦ ●KFDオリジナル実習プリント配布																					

前期授業計画 (4月-9月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容			
1	1-6	ワンピース Aライン、フィットアンドフレヤ、シャツ型	ワンピースに必要なゆるみ分や丈出し、シルエットやフォルムの構造の理解を深めながら、様々なデザインのワンピースの作図法を習得する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
2	7-12	ワンピース パターンチェック、工業用パターン（明き、ポケット）、まとめ	量産に向けた精密なパターン作成の知識の理解を深めながら、素材や縫製順位にしたがった完成度の高い工業用パターン法を習得する。また、明き、ポケット等の構造の理解を深める。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
3	13-18	パンツ ストレート、スリム、ワイド、ベルボトム、フレアー、マスターパターン	パンツに必要なゆるみ分や丈出し、シルエットやフォルムの構造の理解を深めながら、様々なデザインのパンツの作図法を習得する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
4	19-24	パンツ パターンチェック、工業用パターン（明き、ポケット）、まとめ	量産に向けた精密なパターン作成の知識の理解を深めながら、素材や縫製順位にしたがった完成度の高い工業用パターン法を習得する。また、明き、ポケット、ベルト付け等の構造の理解を深める。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
5	25-30	グレーディング	アパレル生産に向けたサイズ展開法、ブロック式グレーディングやネスト図など各部位によるグレーディングピッチを理解する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
6	31-36	PM検定2級筆記対策	アパレル製品の量産化に必要な設計理論を体系的に習得する。人体の構造把握からデザインの具現化、素材特性、グレーディング等の専門知識を深く理解し、実務に即した高度なパターン設計能力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
7	37-42	PM検定2級筆記対策	アパレル製品の量産化に必要な設計理論を体系的に習得する。人体の構造把握からデザインの具現化、素材特性、グレーディング等の専門知識を深く理解し、実務に即した高度なパターン設計能力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
8	43-48	PM検定2級筆記対策	アパレル製品の量産化に必要な設計理論を体系的に習得する。人体の構造把握からデザインの具現化、素材特性、グレーディング等の専門知識を深く理解し、実務に即した高度なパターン設計能力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
9	49-54	PM検定2級実技対策	検定課題のデザイン画を正確に解釈し、ジャケットのファーストパターンからトワル組み立てまでの技能を習得する。制限時間内に、人体の立体構造に即した造形美と設計の正確性を両立させる実践力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
10	55-60	PM検定2級実技対策	検定課題のデザイン画を正確に解釈し、ジャケットのファーストパターンからトワル組み立てまでの技能を習得する。制限時間内に、人体の立体構造に即した造形美と設計の正確性を両立させる実践力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
11	61-66	文化祭作品	伝統工芸品である久留米紬を用い、顧客ニーズを捉えた現代的なシルエットのセットアップを設計する。素材特性を活かしたパターン作成を通じ、商品価値の高い製品を具現化する実践力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
12	67-72	コート ボックス、ラグラン、ルダングト、フレアー、キモノ	コートに必要なゆるみ分や丈出し、シルエットやフォルムの構造の理解を深めながら、様々なデザインのコートの作図法を習得する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
13	73-78	コート ケープ、フード各種	ケープ、フードに必要なゆるみ分や丈出し、シルエットやフォルムの構造の理解を深めながら、様々なデザインのケープ、フードの作図法を習得する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
14	79-84	コート 工業用パターン、比翼明き、ポケット各種	量産に向けた精密なパターン作成の知識の理解を深めながら、素材や縫製順位にしたがった完成度の高い工業用パターン法を習得する。また、明きやポケットの構造の理解を深める。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			
15	85-90	コート ファースト、マスターパターン作成	実物サイズでのコートの平面製図を行う。実際にトワルで組みながらパターン修正を行い、マスターパターンに落とし込んでいき、実物大の感覚を身につける。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。			

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-6	コート 工業用パターン作成	コートの量産に向けた精密なパターン作成の知識の理解を深めながら、素材や縫製順位にしたがった、完成度の高い工業用パターン法を習得すると同時に、実物大の感覚を身につける。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
2	7-12	衿各種	フラット、シャツ、テーラード等、各種衿の構造理論を習得する。ネックラインと衿の立ち上がり、返り具合の相関関係を理解し、意図した形状を正確に設計する能力を養う。
3	13-18	袖各種	セツイン、ラグラン、シャツスリーブ等、各種袖の構造理論を習得する。袖山(AH)と袖山の高さ、運動量の相関関係を理解し、デザインと機能性を両立させた袖の設計能力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
4	19-24	卒業記念展作品ファーストパターン作成	卒業記念作品のパターンを引き、独創的でデザイン画通りのトウルになるようにトライしながら完成度を高めていく。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
5	25-30	卒業記念展作品ファーストパターン作成	卒業記念作品のパターンを引き、独創的でデザイン画通りのトウルになるようにトライしながら完成度を高めていく。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
6	31-36	卒業記念展作品ファーストパターン作成	卒業記念作品のパターンを引き、独創的でデザイン画通りのトウルになるようにトライしながら完成度を高めていく。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
7	37-42	卒業記念展作品トウルチェック	卒業記念作品を立体化し、シルエットの真しさと可動域をハンチナーの視点で検証する。デザイン意図を汲み取った的確なトウル修正(ピン打ち)を行い、マスターパターンの完成度を極める実践力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
8	43-48	卒業記念展作品トウルチェック	卒業記念作品を立体化し、シルエットの真しさと可動域をハンチナーの視点で検証する。デザイン意図を汲み取った的確なトウル修正(ピン打ち)を行い、マスターパターンの完成度を極める実践力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
9	49-54	卒業記念展作品パターン修正	トウルチェックで得た修正情報を論理的に解釈し、平面へ正確に反映する技術を習得する。ゆとり量の再配分や線のつながりを精査し、本縫製に直結する整合性の高い型を仕上げる実践力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
10	55-60	卒業記念展作品パターン修正	トウルチェックで得た修正情報を論理的に解釈し、平面へ正確に反映する技術を習得する。ゆとり量の再配分や線のつながりを精査し、本縫製に直結する整合性の高い型を仕上げる実践力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
11	61-66	卒業記念展作品パターン修正	トウルチェックで得た修正情報を論理的に解釈し、平面へ正確に反映する技術を習得する。ゆとり量の再配分や線のつながりを精査し、本縫製に直結する整合性の高い型を仕上げる実践力を養う。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
12	67-72	卒業記念展作品マスターパターン作成	実物サイズでのマスターパターンを作成。外観的な美しさや、素材の特性、縫製可能なパターンへと落とし込む。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
13	73-78	卒業記念展作品マスターパターン作成	実物サイズでのマスターパターンを作成。外観的な美しさや、素材の特性、縫製可能なパターンへと落とし込む。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
14	79-84	卒業記念展作品工業用パターン作成	実物サイズでの工業用パターンを作成。トウルで縫製仕様を確認し、素材の特性を考慮しながら工業用パターンへ落とし込む。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
15	85-90	卒業記念展作品工業用パターン作成	実物サイズでの工業用パターンを作成。トウルで縫製仕様を確認し、素材の特性を考慮しながら工業用パターンへ落とし込む。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
準備学習 (予習・復習)		演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		授業意欲として日頃から、パターンについての基礎知識やコレクションで出てくるシルエットやフォルムを知ることや商品仕様の観察を推奨する。また、講義内容に対しても積極的に質問を行い、自分で理解することが望ましい。また、製品制作における重要な知識となるためにノートをとることを推奨するとともに、実際に制作したものとを比較検討しながらノートに追加していくことが望ましい。	

授業科目等の概要

学 科	服飾専門課程		ファッションテクニカル科				2年								
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野の設計において、CADを活用した衣服設計を行える技術を身につけ、製造において、素材の特性を理解しながら生産工程の効率化を図るスキルを習得し即戦力となる縫製士やパターンナーを育成する。同時に品質管理における「Quality (品質)」「Cost (価格)」「Delivery (納期)」「Safety (安全)」に必要な能力を磨き、多能工技能者として育成する。														
分 類	必修	<input type="radio"/>	選択		配当年次	2 年	学 期	通年	<input type="radio"/>	前期		後期			
種 別	企画				授業形態	講義		演習		実習	<input type="radio"/>				
授業科目	プロデュースⅡ				単 位	1単位									
担当教員	山崎 菜穂子				職業実践専門課程：企業との連携										
※実務家教員	<input type="radio"/>	洋服のできるコワーキングスペースでの糸作りや服作り・ワークショップ・運営経験を活かし、洋服の楽しさや生地ができるまでの工程、素材の違い・種類・加工について触れ、素材の大切さを伝えることができる。また、婦人子供服製造技能士2級取得の能力を活かし、服作りの製造過程を伝授・補助する。													
資格検定												必修	<input type="checkbox"/>	選択	<input type="checkbox"/>
授業概要	今まで学んできた知識、技術を活かしながら素材作り、テクニック、パターンメイキング、縫製技術を駆使しながら卒業記念展に向けた作品制作を行うことを目的とする。また、グループワークでの取り組みによってコミュニケーションスキルを身につけるとともに、フィッティングから作品のメンテまで一括した品質管理能力を身につける。														
学習成果	①	テキスタイルとシルエットの表現力を身につける。				成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果			%				
	②	縫製工程を考え、クオリティの高い製品制作を目指す。					2	提出物/期限遵守	20	%					
	③	フィッティング及びメンテナンスのスキルや知識を習得する。					3	独創性/習熟度	60	%					
	※	現場において突発的な事に対処できる柔軟な姿勢を身につけていく。					4	意欲・授業態度	20	%					
使 用 材	●スタイリスト&コーディネートの条件														

前期授業計画 (4月-9月)				授業目的・準備学習 (予習・復習) 内容			
1	1-2	ファッションショーに向けての取り組み方について		何が好きかだけでなく何を伝えたいのかを考えさせ、グループで表現できることをディスカッションしながらテーマやコンセプトを導き出していくよう進める。(準備学習：カラーチャートやマップを作成し、持参する事。)			
2	3-4	トレンド分析		トレンドになっているイメージ、デザイン、ディテール、カラー、素材、スタイリング、アイテムを研究し分析する能力を身につける。(準備学習：雑誌やネットを通してトレンドを調査し、画像を収集しておくこと。)			
3	5-6	シルエットについて		トレンドのシルエット研究や、テーマやコンセプトに基づいたイメージをシルエットでどう表現するかを検討しながら、デザインの可能性を広げられるように理解を深める。			
4	7-8	シルエット分析		トレンドになっているシルエットや過去のコレクションのシルエット、テーマ、コンセプトを考慮しながら収集分析を行うスキルを身につける。(準備学習：トレンドに沿ったシルエットの画像を収集しておくこと。)			
5	9-10	テキスタイルについて		テーマやコンセプトに沿って、テキスタイルの収集と選定を行いながら質感や無いものは作るという創作へと繋げていくための準備を行う。(準備学習：テキスタイルや技法について画像や方法を調べておくこと。また、テキスタイル制作に必要な材料を準備し、持参する事。)			
6	11-12	テクニックについて		今持っている技術とこれから身につけることが可能な技術を想定し、テーマ、コンセプト、テキスタイルの心理的なものと物理的なものを絡めて表現できる。(予習：テーマやコンセプト、テキスタイルについて各自調べておくこと。)			
7	13-14	テキスタイル研究		テーマやコンセプトに沿っての情報収集や、作ったものから具体的なイメージに沿って完成度の高いテキスタイルを目指し作り上げていく。(準備学習：テキスタイル制作に必要な材料を準備し、持参する事。)			
8	15-16	ヴィジュアルボード制作		テーマ、コンセプト、シルエット、テクニック、テキスタイルの研究から見えてくるイメージを具象化するためにビジュアルボードを作成し、グループでのイメージの共有を促す。(事前学習：画像の収集をしておくこと。)			
9	17-18	サンプル制作		収集したテキスタイルから精査し、テーマ、コンセプトに近い素材を作り上げていく。材料の選定とそれを組み合わせながら素材を開発するスキルを身につける。(事前学習：必要な材料を準備し、持参する事。)			
10	19-20	デザイン発想		研究、分析したテキスタイル、シルエット、トレンド情報を加味しながら、デザインを3次的にとらえ、クリエイティブな発想力を身につける。(予習：ディテールやデザインを調べ、画像を収集しておくこと。)			
11	21-22	パターン研究		情報分析したテキスタイル、シルエット、トレンドの中からパターンの構造を研究し、3次元に落とし込むための準備を行う。			
12	23-24	トワル表現		デザイン画に基づき、素材の物性を考慮しながらパターンメイキング、ドレーピングでパターン力を駆使し造形へと落とし込んだ表現力を身につける。(予習：トワル表現を行うために、パターンを準備しておくこと。)			
13	25-26	トワルチェック		トワルがイメージ通りか、着用可能なものか、様々な角度からチェック・確認していく。テーマ、コンセプト、デザイン画、テキスタイル、トレンド全てを意識しながら観る力を身につける。			
14	27-28	トワル修正		完成度の低い部分を取り除きながら、設計上で360度整合性をとれるようにすること、視覚的バランスの修正が行える調整力を身につける。			
15	29-30	パターンチェック、まとめ		修正したトワルから2次元へと落とし込んでいく。造形から平面展開し、数字を駆使しながらミリ単位でパーツチェックを行う正確さを身につける。(復習：修正した箇所を再度確認し、チェックを行う。制作に向けて、グループでまとめておくこと。)			

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習 (予習・復習) 内容
1	1-2	実物テキスタイル材料準備1	サンプルテキスタイルを基に、材料の調達を行いマーキングによる必要な型尺を割り出す。コストやそれにかかる日数を割り出し計画する。(事前学習: デザインをもとに素材を収集しておくこと。)
2	3-4	実物テキスタイル材料準備2	材料の調達を進めながら、付属品の選別を測りテキスタイル制作の前準備を入念に行う。また、不足すると思われる材料の入手先をリサーチする。(事前学習: デザインをもとに素材を収集しておくこと。)
3	5-6	実物テキスタイル制作1	準備した材料を基に、サンプル通りに作り上げていく。品質にムラが出ないように作業性と一定のリズム、集中力を保つようにする。そして、作業にかかる時間のロスを改善しながら進めていく。(事前学習: 制作に必要な材料を準備し、持参する事。)
4	7-8	実物テキスタイル制作2	定期的にテキスタイルの品質を確認しながら必要なパーツ数と照らし合わせながら制作する。さらに作業の効率化を図りながら改善する力を身につけていく。(事前学習: 制作に必要な材料を準備し、持参する事。)
5	9-10	実物裁断1	布目や柄域を見ながら、正確に裁断していく。また、補正が入る箇所には多めに縫い代をとり仮縫いの時の補正に対応する。マーキングを行う上で歩留まりの高い管理能力を身につける。(事前学習: 制作に必要な材料を準備し、持参する事。)
6	11-12	実物裁断2	定期的に地の目や柄域を確認しながら裁断を行っていく。品質にムラが出ないように作業性と一定のリズム、集中力を保つようにする。そして、作業にかかる時間のロスを改善しながら進める。(事前学習: 制作に必要な材料を準備し、持参する事。)
7	13-14	作品印付け1	パーツ毎に印を入れていくことで、整合性の取れた服になる。また布目が落ち着く服になるので、布目を見る力を身につけることができる。(予習: パターンの再確認を行う。)
8	15-16	作品印付け2	細かなパーツまで印付けを行い、全てがパターン通りになっているかをチェックする。正確さと作業性を身につける。(予習: パターンの再確認を行う。)
9	17-18	作品仮縫い1	布目を見ながら不要なしわを作らないように縫合していく。シルエットを壊さないように縫い代幅を検討し、出来上がりのイメージを持って作業をしていく。(事前学習: 制作に必要な材料を準備し、持参する事。)
10	19-20	作品仮縫い2	全体の縫い上がりを見ながら微調整を行い、縫製仕様を組み立てながら全体のバランスを確認していくことで調整力を身につける。(事前学習: 制作に必要な材料を準備し、持参する事。)
11	21-22	作品制作1	仮縫いで組み上げた作品の整理を行い、出来映えとしてベストな縫合を行っていく。とくに、縫い代の始末や副資材の導入を考慮しながら進めていく。(事前学習: 制作に必要な材料を準備し、持参する事。)
12	23-24	作品制作2	全体の縫い上がりを見ながら微調整を行い、バランスを確認していくことで調整力を身につける。(事前学習: 制作に必要な材料を準備し、持参する事。)
13	25-26	コーディネート	服以外の小物の選別を図り、イメージ、コンセプト、カラー、素材感、全体のバランスをみながら組み合わせることで、コーディネート力を身につける。(復習: 作品制作終了後、作品についてテーマやコンセプト、素材、表現方法などをまとめておくこと。)
14	27-28	スタイリング	全体のアイテムの調和をとりながら、服のシルエット、着丈、ディテール、小物の修正を行い作品を完成させる。(復習: 作品制作終了後、作品についてテーマやコンセプト、素材、表現方法などをまとめておくこと。)
15	29-30	フィッティング、メンテナンス、まとめ	早着替えのための着脱や吊りひもを準備する。また、モデルの着脱後に作品の不具合がないか、アイロンでしわを取り除くメンテナンスまで作品の管理能力を身につける。
準備学習 (予習・復習)		演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		授業意欲として日頃から、新しい知識や技術、トレンドに触れながらの創作活動を推奨する。また、講義内容に対しても積極的に質問を行い、自己で理解しながら作品制作が出来ることが望ましい。ほかに、グループでのディスカッションを行いチームとしてプロジェクトを遂行していくことを推奨する。2月に行われる卒業記念展としてグループで作品発表を行う。	

授業科目等の概要

学 科	服飾専門課程 ファッションテクニカル科 2年											
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野の設計において、CADを活用した衣服設計を行える技術を身につけ、製造において、素材の特性を理解しながら生産工程の効率化を図るスキルを習得し即戦力となる縫製士やパタンナーを育成する。同時に品質管理における「Quality (品質)」「Cost (価格)」「Delivery (納期)」「Safety (安全)」に必要な能力を磨き、多能工技能者として育成する。											
分 類	必修	○	選択	配当年次	2	年	学 期	通 年	○	前 期	後 期	
種 別	流通・販売					授業形態	講義	演習	○	実習	○	
授業科目	市場調査Ⅱ					単 位	1単位					
担当教員	山崎 菜穂子					職業実践専門課程：企業との連携						
※実務家教員	○ 洋裁のできるコワーキングスペースでの糸作りや服作り・ワークショップ・運営経験を活かし、洋裁の楽しさや生地ができるまでの工程、素材の違い・種類・加工について触れ、素材の大切さを伝えることができる。また、婦人子供服製造技能士2級取得の能力を活かし、服作りの製造過程を伝授・補助する。											
資格検定											必修	選択
授業概要	製品を作るうえでの、アイテム毎のトレンドのシルエット・デザイン・ディテール・素材・配色・糸番手等を調査し、ソーイングやパターンメイキングで制作するアイテムに活かしていく。また、製品に対する素材の取り扱い方や仕立て方に理解を深めながら、縫製仕様書やパターンに反映出来るようにアパレル製造の技能を身に付ける。											
学習成果	①	リサーチと考察力の習得。					成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果		%	
	②	用途に合わせた縫製仕様を理解する。						2	提出物/期限遵守	20	%	
	③	パターン分析力の向上。						3	独創性/習熟度	60	%	
	※	アパレル製造の技能習得。						4	意欲・授業態度	20	%	
使 用 材	<ul style="list-style-type: none"> ●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④⑤⑥⑦ ●ファッションディクショナリー ●文化出版局アパレル素材論 											

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	レース素材ワンピース、スカトリサーチ (調査)	市場に出ているレース素材のワンピース、スカートを調査し、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様等について理解を深める。
2	3-4	レース素材ワンピース、スカトリサーチ (レポート)まとめ	市場に出ているレース素材のワンピース、スカートの調査を基に、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様等を考察してレポートにまとめる。
3	5-6	パンツリサーチ (調査)	市場に出ているパンツを調査し、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様等について理解を深める。
4	7-8	パンツリサーチ (レポート)	市場に出ているパンツの調査を基に、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様等を考察してレポートにまとめる。
5	9-10	アップサイクル製品リサーチ (調査)	市場に出ているアップサイクル製品性のアイテムを調査し、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様等について理解を深める。
6	11-12	アップサイクル製品リサーチ (レポート)	市場に出ているアップサイクル製品を調査し、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様、ディスプレイ等を考察してレポートにまとめる。
7	13-14	カット&ソーンリサーチ (調査)	市場に出ているカット&ソーンを調査し、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様等について理解を深める。
8	15	カット&ソーンリサーチ (レポート)	市場に出ているカット&ソーンの調査を基に、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様等を考察してレポートにまとめる。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

通 年

2026年 ファッションテクニカル科2年シラバス

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習 (予習・復習) 内容
1	1-2	文化祭展示内容リサーチ (調査) ①	市場に出ている商品やディスプレイまた、展示場を調査し、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様、ディスプレイ等について理解を深める。
2	3-4	文化祭展示内容リサーチ (調査) ②	市場に出ている商品やディスプレイまた、展示場を調査し、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様、ディスプレイ等について理解を深める。
3	5-6	文化祭展示内容リサーチ (レポート)、まとめ	市場に出ている商品やディスプレイまた、展示場の調査を基に、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様、ディスプレイ等を考察してレポートにまとめる。
4	7-8	コートリサーチ (調査)	市場に出ているコートを調査し、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様等について理解を深める。
5	9-10	コートリサーチ (レポート)	市場に出ているコートの調査を基に、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様等を考察してレポートにまとめる。
6	11-12	卒業記念展作品のコーディネート、アイテムリサーチ (調査) ①	卒業記念展の作品制作に向けてアイテムやコーディネートを調査し、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様等について理解を深める。
7	13-14	卒業記念展作品のコーディネート、アイテムリサーチ (調査) ②	卒業記念展の作品制作に向けてアイテムやコーディネートを調査し、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様等について理解を深める。
8	15	卒業記念展作品のコーディネート、アイテムリサーチ (レポート)	卒業記念展の作品制作に向けてアイテムやコーディネートの調査を基に、トレンド傾向、素材、デザイン、ディテール、パターン、縫製仕様等を考察してレポートにまとめる。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
準備学習 (予習・復習)	演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。		
その他 (授業に際しての注意点)	授業意欲として日頃から、新しい知識や技術、市場を見ながらトレンドを分析、トレーニングすることを推奨する。また、講義内容に対しても積極的に質問を行い、自己で理解しながらレポートとして独自の考察を導入することが望ましい。ほかに、多くの商品に触れたり着用することで、素材の質感や着心地、フォルムのバランスを感じ取りながら調査することを推奨する。		

授業科目等の概要

服飾専門課程		ファッションテクニカル科				2年									
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科ではアパレル分野の設計において、CADを活用した衣服設計を行える技術を身につけ、製造において、素材の特性を理解しながら生産工程の効率化を図るスキルを習得し即戦力となる縫製士やパタンナーを育成する。同時に品質管理における「Quality (品質)」「Cost (価格)」「Delivery (納期)」「Safety (安全)」に必要な能力を磨き、多能工技能者として育成する。														
分類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	2年		学期	通年		<input type="radio"/>	前期	<input type="checkbox"/>	後期	<input type="checkbox"/>
種別	総論				授業形態	講義	<input type="radio"/>	演習	<input type="checkbox"/>	実習	<input type="checkbox"/>				
授業科目	服飾造形論Ⅱ				単位	1単位									
担当教員	山崎 菜穂子				職業実践専門課程：企業との連携										
※実務家教員	<input type="radio"/>	洋裁のできるコワーキングスペースでの糸作りや服作り・ワークショップ・運営経験を活かし、洋裁の楽しさや生地ができるまでの工程、素材の違い・種類・加工について触れ、素材の大切さを伝えることができる。また、婦人子供服製造技能士2級取得の能力を活かし、服作りの製造過程を伝授・補助する。													
資格検定												必修	<input type="checkbox"/>	選択	<input type="checkbox"/>
授業概要	プロダクト全般に関する仕事を理解して、製造工程、縫製工程、効率的で品質の安定を図った縫製方法や生産管理に関する知識や技術、縫製機器やアタッチメントの取り扱い、服飾付属品関連知識、素材の種類や生地の特性に対応した裁断、印付け、芯貼り、縫製、補正に関する知識、技術を習得することを目標とする。														
学習成果	①	素材の特性を理解する。				成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果	60	%					
	②	歩留まりの高い生産工程を理解する。					2	提出物/期限遵守	20	%					
	③	用途に合わせた縫製仕様を理解する。					3	独創性/習熟度		%					
	※	アパレル生産のスキルの習得。					4	意欲・授業態度	20	%					
使 用 材	●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④⑤⑥⑦ ●KFDオリジナル実習プリント配布														

前期授業計画 (4月-9月)			授業目的・準備学習 (予習・復習) 内容		
1	1-2	特殊素材 (レース)のトップス 素材の知識、裁断、芯据え、裏地の据え方	レースの特性を理解し、地の目や柄を通した裁断をする。そして、芯据えについては必要な場所に適した形状で行える知識をもつ。裏地の形状と位置を把握しながら縫合の理解を深める。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。		
2	3-4	特殊素材 (レース)のトップス 明き、縫い代、縫製法、アイロンのかけ方、補正法	明きの種類と構造及び縫製法の理解を深める。また、柄域や逃げ感を踏まえた縫い代付けや始末を行うことが出来る。バックリング (縫い縮み) を起こさない縫い方を知り、合理的な縫製法の理解を深める。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。		
3	5-6	特殊素材 (レース)のスカート 縫製法、アイロンのかけ方	素材に合わせた、糸と針の選定方法と縫い目ピッチ、バックリング (縫い縮み) を起こさない縫い方を知り、合理的な縫製法とアイロンのかけ方の理解を深める。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。		
4	7-8	特殊素材 (レース)のスカート 明き、ベルト付け、まとめ	ファスナーの明きについて、ファスナーとの構造並び縫製法と、ベルト付けによる縫製法の理解を深める。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。		
5	9-10	パンツ 素材の知識、裁断、芯貼り、裏地の据え方、ポケット	パンツに適した素材の特性を理解し、地の目を通した裁断をする。縫製仕様に沿いながら、必要なゆとり分量や表地を考慮する。裏地の形状と位置を把握し、ポケット各種も構造と縫製法の理解を深める。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。		
6	11-12	パンツ ファスナー明き、ベルト	パンツの明きについて、ファスナーとの構造並び縫製法と、ベルト各種のボタンと縫製法の理解を深める。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。		
7	13-14	パンツ 縫い代、縫製法、アイロンのかけ方、補正法、まとめ	素材やパンツの形状に適した縫い代が付けられる知識と、体の形状とボタンを考慮したアイロン割りや、くせ取りの理解を深める。また、補正法に関しての知識を深める。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。		
8	15	カット&ソーン 素材の知識、裁断、テープ貼り、縫製法、アイロンのかけ方	素材の特性 (伸縮性) を理解しながら、地の目を通した裁断を行う。テープ貼りは必要な場所に貼る知識を身につける。また、素材によるミシン機能と縫製、アイロンのかけ方の理解を深める。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。		
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

通年

2026年 ファッションテクニカル科2年シラバス

後期授業計画 (10月-3月)		授業習熟度のねらいまたは、準備学習
1	1-2	職業実践専門課程製品制作 素材の知識、裁断、テープ貼り、縫製法、アイロンのかけ方 素材の特性を理解しながら、地の目を通した裁断を行う。テープ貼りは必要な場所に貼る知識を身につける。素材によるミシン機器と縫製、アイロンのかけ方の理解を深める。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
2	3-4	職業実践専門課程製品制作 素材の知識、裁断、裏地の据え方 素材の特性を理解し、縫製仕様と素材に考慮しながら、裏地に必要なゆとり分量と縫い代つけが出来る。裏地の形状と位置を把握しながら縫合の理解を深める。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
3	5-6	既製服仕立てのコート 素材について、裁断、芯貼り、裁ち出し袖 素材に基づき、地の目を通した裁断を行う。芯貼りについては通した形状で接着できる知識を身につける。パターンの一連の知識を含ませながら身頃と袖の関係性や裁ち出しに関する組み立て方を理解する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
4	7-8	既製服仕立てのコート 前明き、ポケット、裾始末、ボタン 外衣としての明きの種類と構造の理解を深めながら、縫製法を理解する。また、ポケット各種においても構造と縫製法の理解を深める。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
5	9-10	既製服仕立てのコート 縫製法、アイロンのかけ方、補正法 アパレル縫製に適した縫製法を学びながら、素材に合わせた糸と針の選定方法を知り、合理的で品質の高い縫製法とアイロンのかけ方の理解を深める。体型によるパターンの補正法を追求する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
6	11-12	卒業作品展作品制作 デザイン、素材を考慮した裁断が出来、正しく印入れを行いながら加工準備や段取りの工程を考えを深めていく。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
7	13-14	卒業作品展作品制作 素材、縫製仕様に基づいた縫製が出来、パターン通りに仕上げ、デザイン、素材、パターン、仕様がバランスよく仕立てる力を身につける。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
8	15	卒業作品展作品制作・まとめ 素材、縫製仕様に基づいた縫製が出来、パターン通りに仕上げ、デザイン、素材、パターン、仕様がバランスよく仕立てることができたか確認し、改善点などまとめ、理解を深める。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
準備学習 (予習・復習)	講義に関しては、1時間の講義に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、15時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)	授業意欲として日頃から、素材についての基礎知識や新聞等に出てくる新しい素材の扱いを知ることや、商品仕様の観察を推奨する。また、講義内容に対しても積極的に質問を行い、自己で理解することが望ましい。また、製品制作における重要な知識となるため、常に復習することを推奨するとともに、実際に制作したものと授業で習得した知識を比較検討しながらノートに追加していくことが望ましい。	